

毛呂山町 人口ビジョン

令和7年3月

毛呂山町

目次

I. 毛呂山町人口ビジョンについて	1
(1) はじめに	1
(2) 毛呂山町人口ビジョンの位置づけ	1
(3) 対象期間	1
II. 毛呂山町の人口動向の現状と見通し	2
1. 現状分析	2
(1) 人口動向分析についての基本的考え方	2
(2) 総人口の推移	2
(3) 人口動向	3
(4) 人口動態	5
(5) 要因別分析	6
(6) その他	10
2. 毛呂山町の将来人口の見通し	13
(1) 国勢調査人口	13
(2) 住民基本台帳人口	19
3. 毛呂山町における人口動向・構造の特性と課題	25
III. 毛呂山町の人口の将来展望	27
1. 将来を見据えた人口問題に対する取組の考え方	27
2. 戦略人口と将来展望	27
(1) 戦略人口	27
3. 目指すべき将来の方向	30
資料編	31

I. 毛呂山町人口ビジョンについて

(1) はじめに

本町では、平成27（2015）年8月、2060年の戦略人口を24,509人とする「毛呂山町人口ビジョン」を策定し、総合戦略に掲げた各種施策を実施してきました。

また、令和2（2020）年3月に策定した第五次毛呂山町総合振興計画後期基本計画及び第2期毛呂山町総合戦略を策定する際には、直近の国勢調査人口の結果やその後の人口動向を踏まえた趨勢人口の見直しを実施しています。

今般、第六次毛呂山町総合振興計画基本構想及び前期基本計画を策定するにあたり、令和2（2020）年に実施した国勢調査人口、また本町の合計特殊出生率の推移などを踏まえ、令和5（2023）年度、新たに人口推計を行いました。

新たに行った人口推計の結果を基に、今後の本町の人口推移を把握し、本町に必要な施策や事業を検討する上での資料とするため、人口ビジョンの改訂を行いました。

なお、今回の人口ビジョンの改訂にあたっては、国勢調査人口及び住民基本台帳人口の2種類の将来人口の推計を行いました。

(2) 毛呂山町人口ビジョンの位置づけ

毛呂山町人口ビジョンは、人口の現状や人口の推計を分析することで、町の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と、将来人口に基づく将来の展望を提示するものです。また、同時に策定する第六次毛呂山町総合振興計画基本構想及び前期基本計画の目標値や、必要な施策・事業を検討する上で、重要な基礎資料となります。

(3) 対象期間

毛呂山町人口ビジョンの対象期間は、令和7（2025）年から令和27（2045）年までの20年間とします。

Ⅱ. 毛呂山町の人口動向の現状と見通し

1. 現状分析

(1) 人口動向分析についての基本的考え方

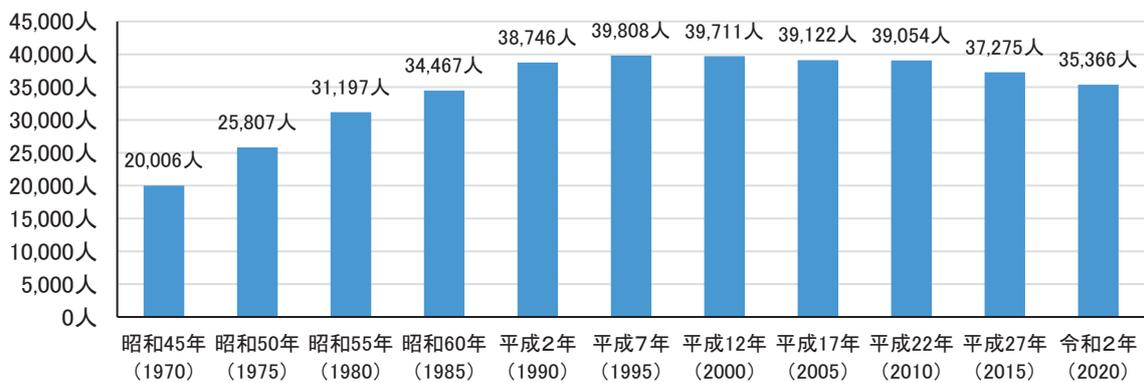
過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階層別の人口移動分析を行います。

(2) 総人口の推移

ア 国勢調査人口

毛呂山町の国勢調査人口は、平成7（1995）年まで増加していましたが、平成7（1995）年の39,808人をピークに減少に転じており、直近の令和2（2020）年の国勢調査人口は、35,366人となっています。

国勢調査人口の推移

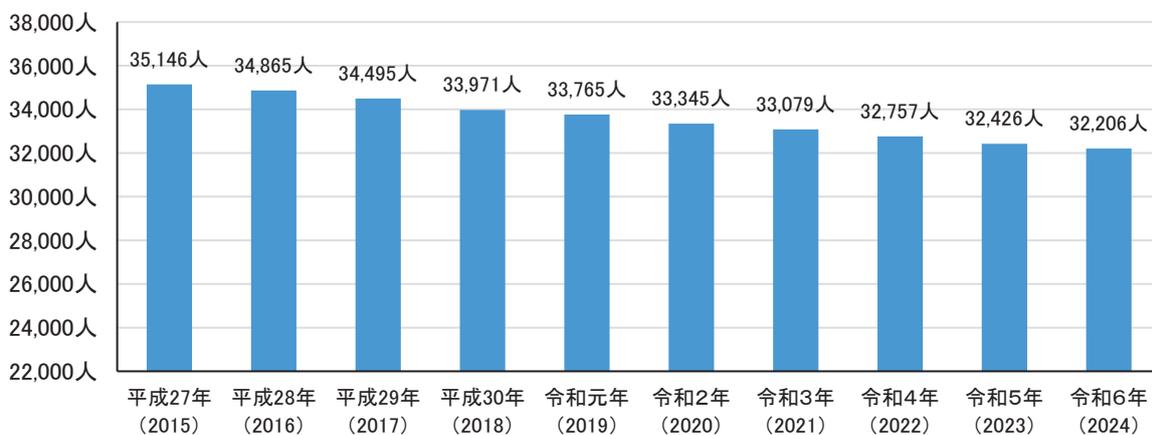


出典：国勢調査

イ 住民基本台帳人口

過去10年間の毛呂山町の住民基本台帳人口の推移をみると、平成27（2015）年の35,146人から年々減少しており、令和6（2024）年には32,206人となっています。

住民基本台帳人口の推移

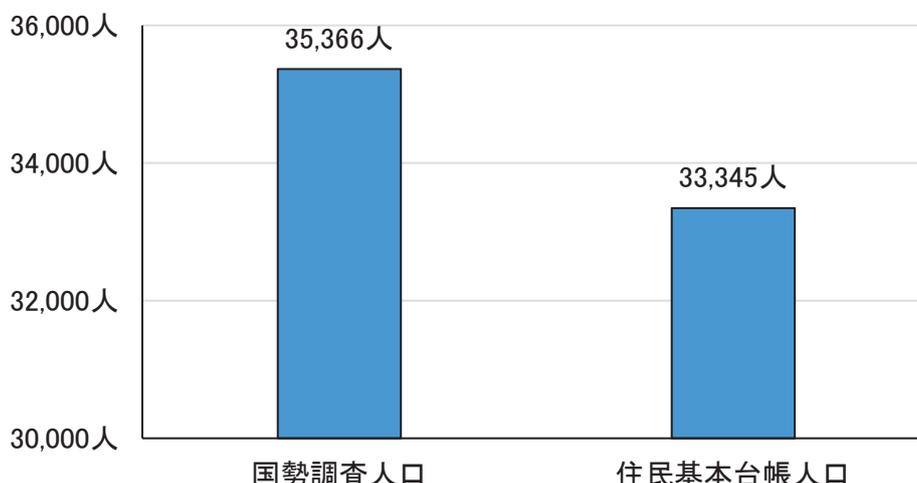


出典：住民基本台帳

ウ 国勢調査人口と住民基本台帳人口の推移について

これまでの毛呂山町の国勢調査人口と住民基本台帳人口とを比較すると、国勢調査人口が住民基本台帳人口を上回っています。令和2（2020）年の国勢調査人口と住民基本台帳人口を比較すると、国勢調査人口が約2,000人多くなっています。

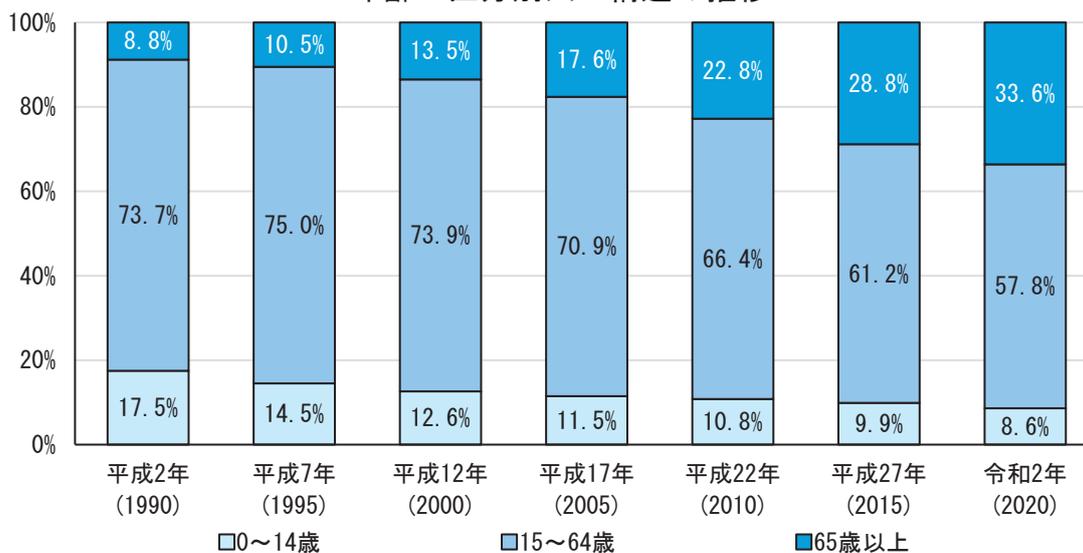
国勢調査人口と住民基本台帳人口との差分について



(3) 人口動向

年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が平成2（1990）年の8.8%から令和2（2020）年には33.6%と30年間で24.8ポイント増加している一方で、年少人口は、17.5%から8.6%と8.9ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。

年齢3区分別人口構造の推移



出典：国勢調査

(人)

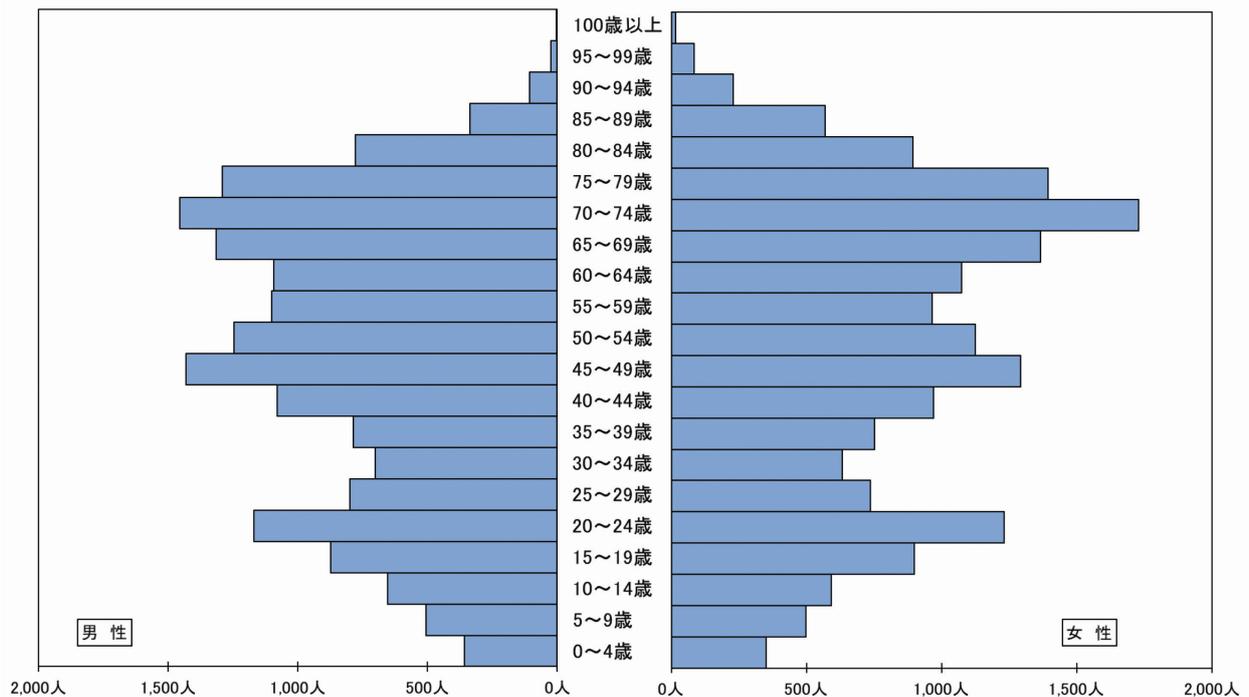
		平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	
人 口	年少人口	0～4歳	1,701	1,534	1,413	1,308	1,170	924	710
		5～9歳	2,300	1,874	1,665	1,496	1,483	1,266	1,004
		10～14歳	2,796	2,371	1,906	1,673	1,575	1,487	1,246
		計	6,797	5,779	4,984	4,477	4,228	3,677	2,960
	生産年齢人口	15～19歳	4,240	3,547	2,840	2,402	2,320	2,004	1,773
		20～24歳	4,300	5,004	4,247	3,650	3,318	2,808	2,400
		25～29歳	2,267	2,789	3,308	2,592	2,134	1,780	1,537
		30～34歳	2,189	2,154	2,444	2,751	2,247	1,694	1,334
		35～39歳	2,870	2,229	2,158	2,325	2,747	2,124	1,538
		40～44歳	3,383	2,925	2,254	2,085	2,432	2,751	2,049
		45～49歳	3,209	3,495	2,928	2,245	2,155	2,429	2,723
		50～64歳	6,084	7,708	9,170	9,484	8,540	7,123	6,602
	計	28,542	29,851	29,349	27,534	25,893	22,713	19,956	
	老年人口	65～74歳	2,135	2,585	3,273	4,163	5,425	6,308	5,867
		75歳以上	1,256	1,590	2,095	2,660	3,460	4,386	5,727
計		3,391	4,175	5,368	6,823	8,885	10,694	11,594	
年齢不詳		16	3	10	288	48	191	856	
総人口		38,746	39,808	39,711	39,122	39,054	37,275	35,366	
構 成 比	年少人口	0～14歳	17.5%	14.5%	12.6%	11.5%	10.8%	9.9%	8.6%
	生産年齢人口	15～64歳	73.7%	75.0%	73.9%	70.9%	66.4%	61.2%	57.8%
	老年人口	65歳以上	8.8%	10.5%	13.5%	17.6%	22.8%	28.8%	33.6%

出典：国勢調査

令和2（2020）年の毛呂山町の5歳階級別の人口構造をみると、65歳～79歳までの人口の割合が多くなっており、高齢化が進んでいることがわかります。

一方、30歳代以下の年齢層では、20歳～24歳の人口が多くなっています。

毛呂山町の5歳階級別人口構造



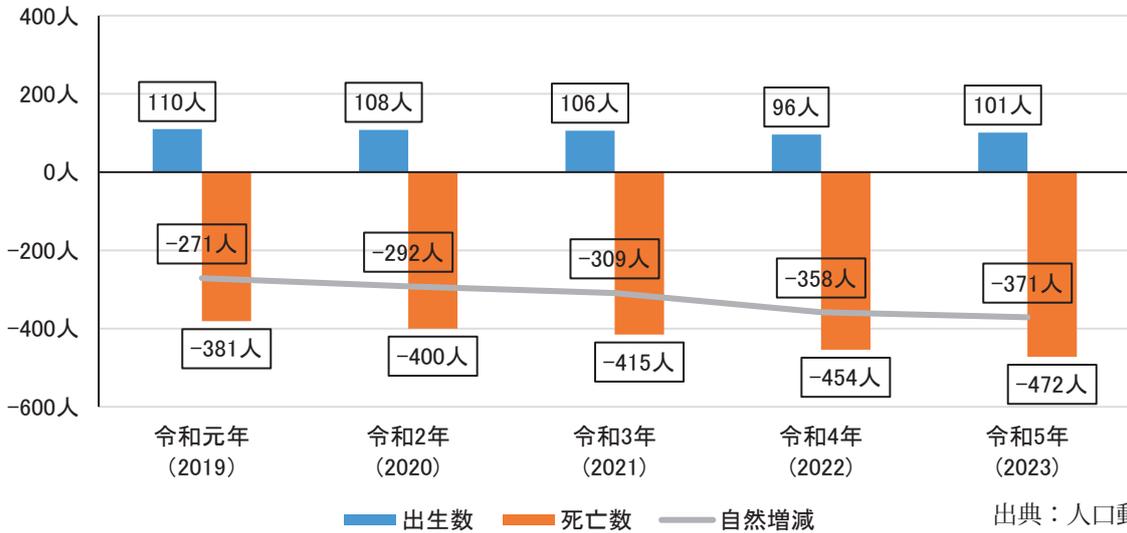
出典：令和2年国勢調査

(4) 人口動態

ア 自然動態

令和元（2019）年～令和5（2023）年の5年間の出生・死亡者数をみると、出生数は減少傾向にありますが、死亡者数は増加傾向になっています。自然増減は、自然減の傾向が見られます。

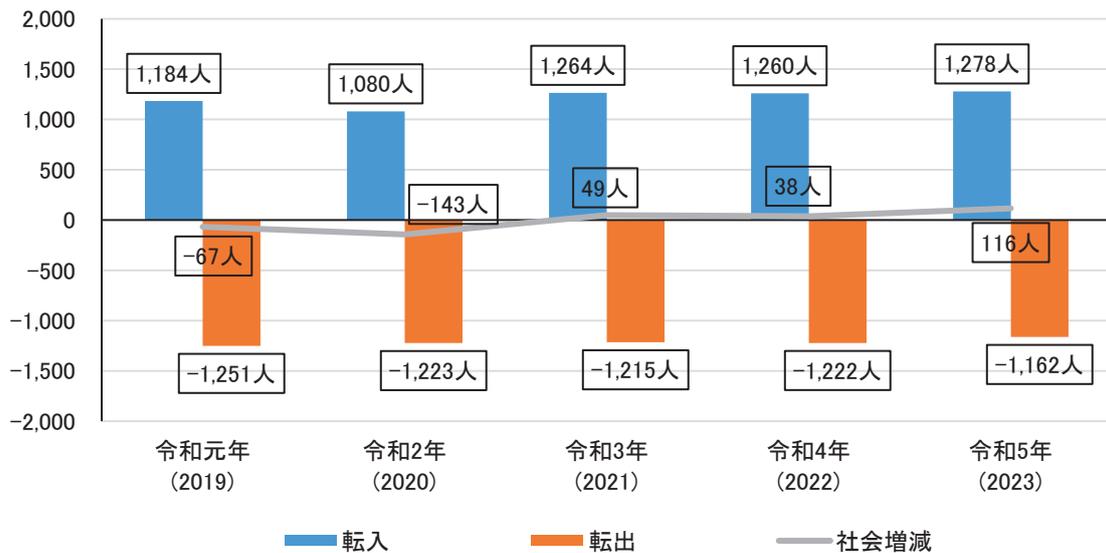
出生・死亡者数の推移



イ 社会動態

令和元（2019）年～令和5（2023）年の5年間の転入・転出者数をみると、転入者数はゆるやかに増加しており、転出者数はほぼ横ばいで推移しています。社会増減は令和3（2021）年から増加に転じています。

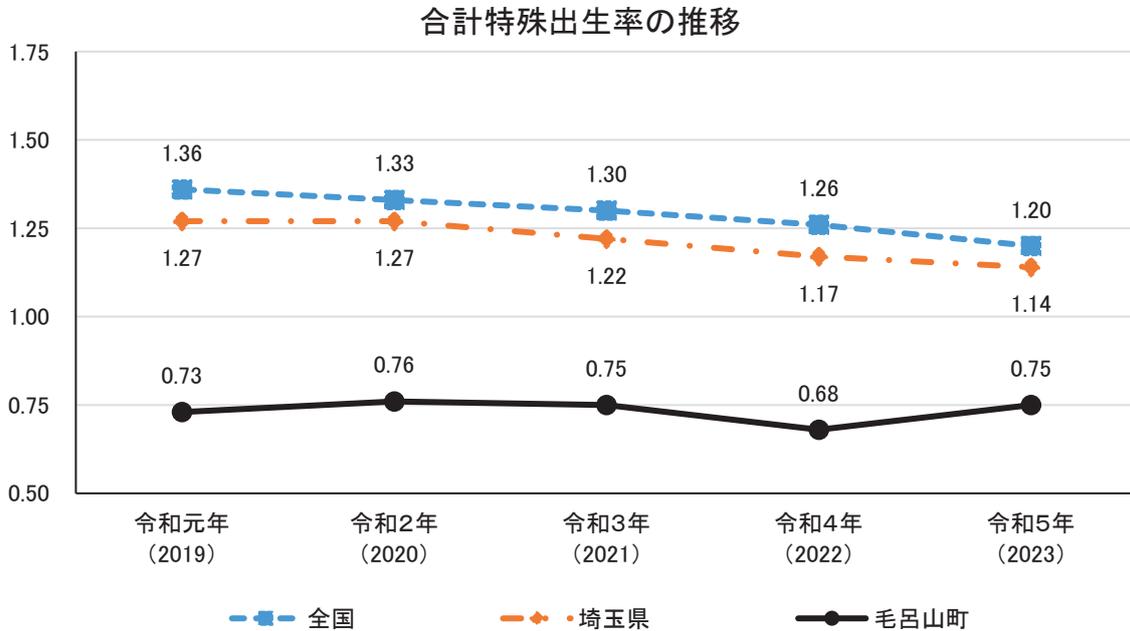
転入・転出者の推移



(5) 要因別分析

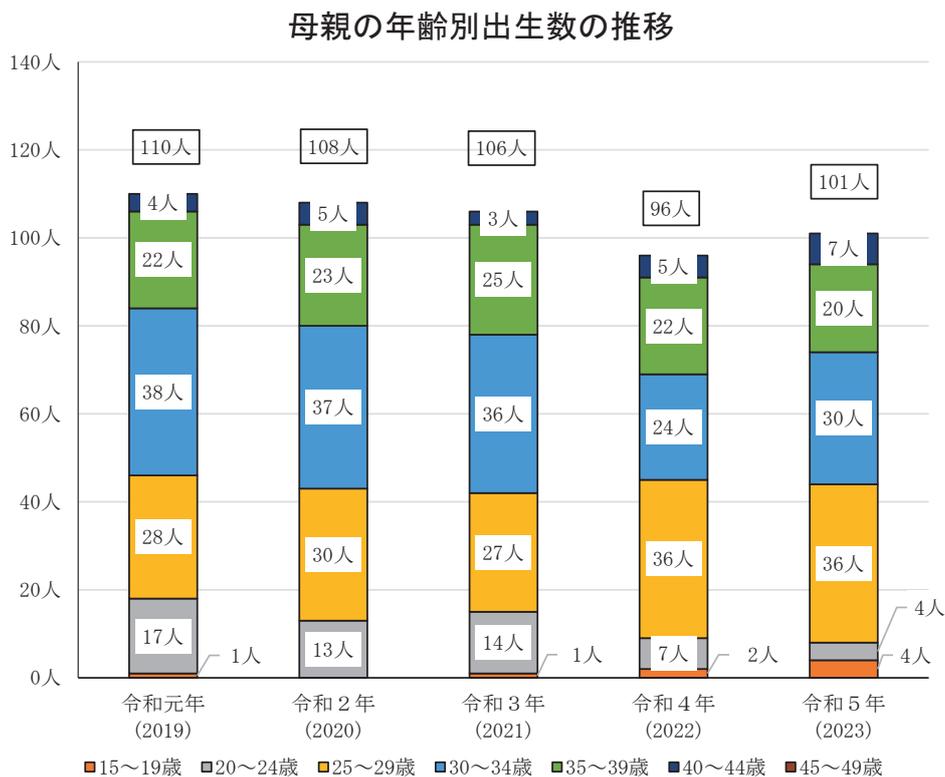
ア 出生の状況

令和元（2019）年～令和5（2023）年の5年間の合計特殊出生率の推移をみると、毛呂山町の合計特殊出生率は、全国・埼玉県と比較して低いですが、ほぼ一定の水準を保っています。令和5（2023）年の合計特殊出生率は、0.75となっています。



出典：埼玉県ホームページ

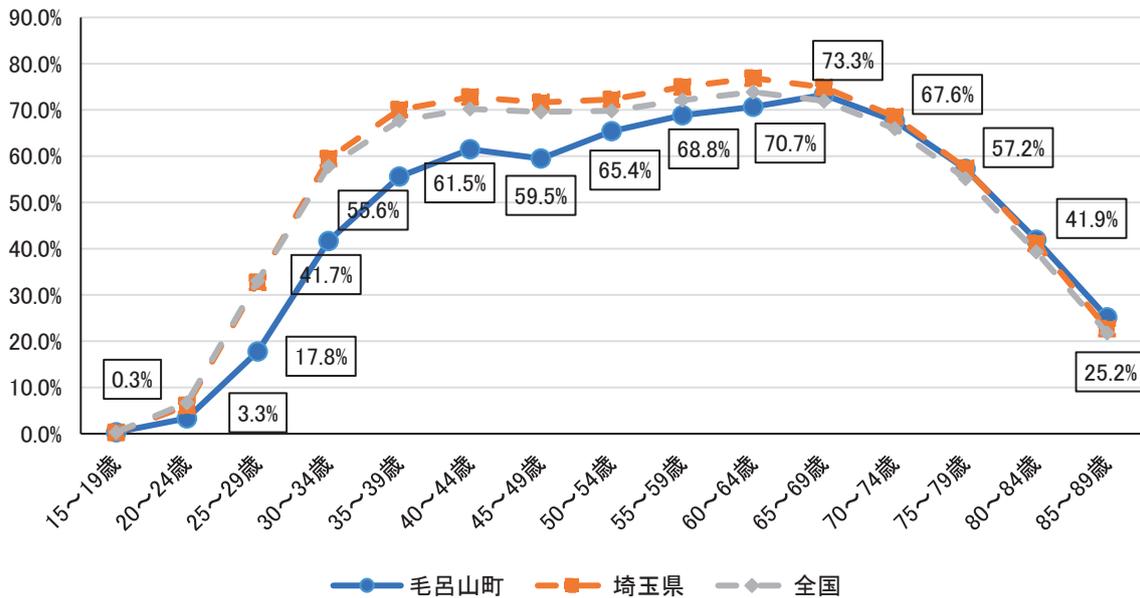
母親の年齢別出生数の推移をみると、各年でそれぞれ30代の母親の出生数が20代の母親の出生数を上回っていることが分かります。



出典：人口動態調査

令和2（2020）年の女性の有配偶率を全国・埼玉県・毛呂山町で比較すると、“60～64歳”までの年代で、本町の女性の有配偶率は全国・埼玉県に比べて低くなっています。特に、20代後半から30代後半にかけての有配偶率が、全国・埼玉県と比べると低くなっており、本町においては若い世代が結婚していない状況がわかります。

女性の有配偶率

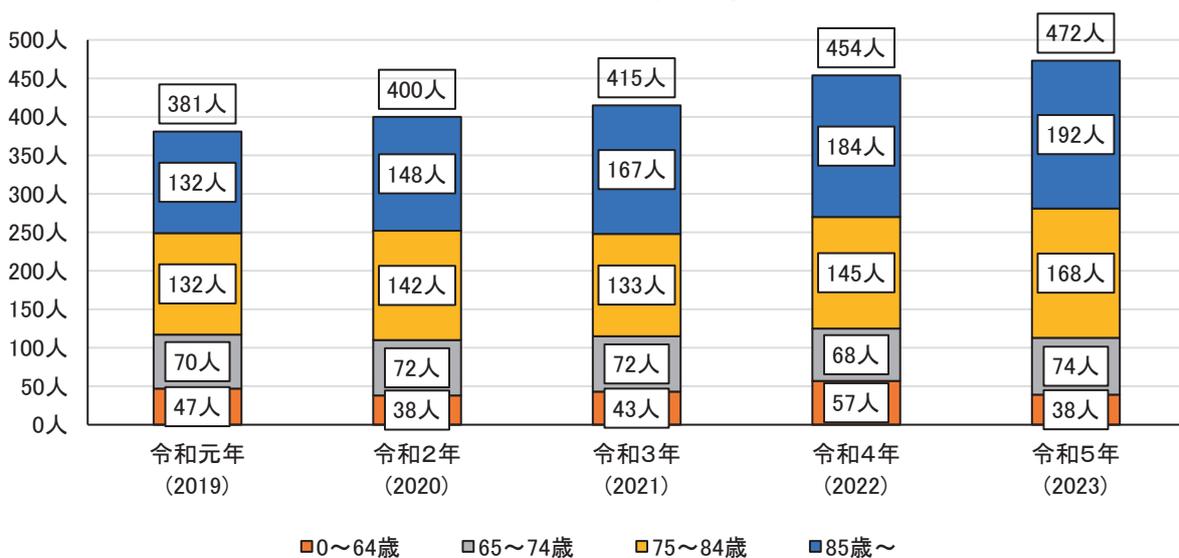


出典：国勢調査

イ 死亡の状況

令和元（2019）年～令和5（2023）年の5年間の年齢別死亡者数をみると、85歳以上だけでなく、75～84歳の死亡者数も増加傾向にあります。

年齢別死亡者数の推移

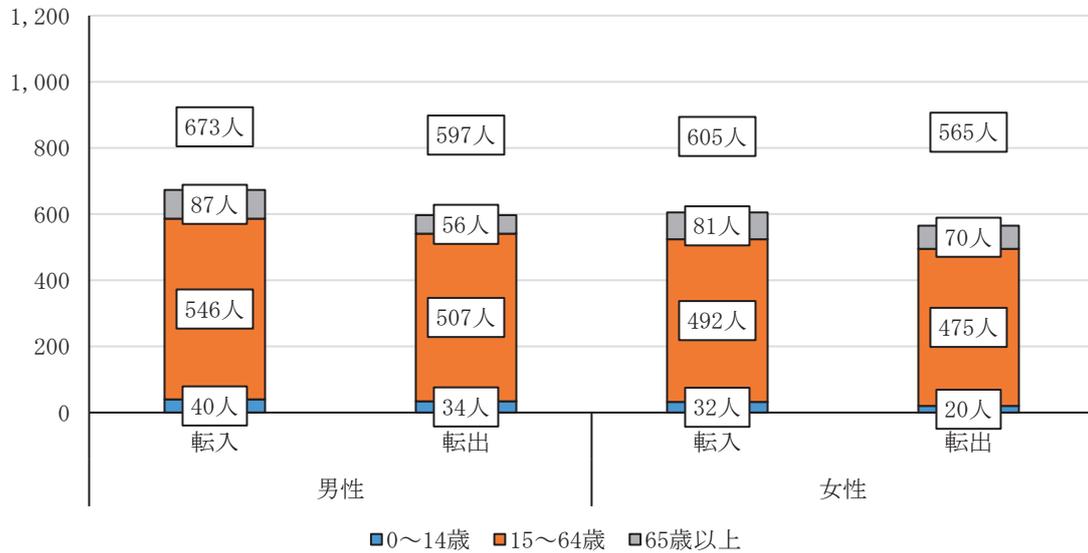


出典：人口動態調査

ウ 転入・転出の状況

令和5（2023）年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、男性女性ともに転入超過となっています。男性女性ともに、“15歳～64歳”の移動が全体の約8割を占めている状況です。

性別・年齢3区分別の転入・転出の状況(単位:人)

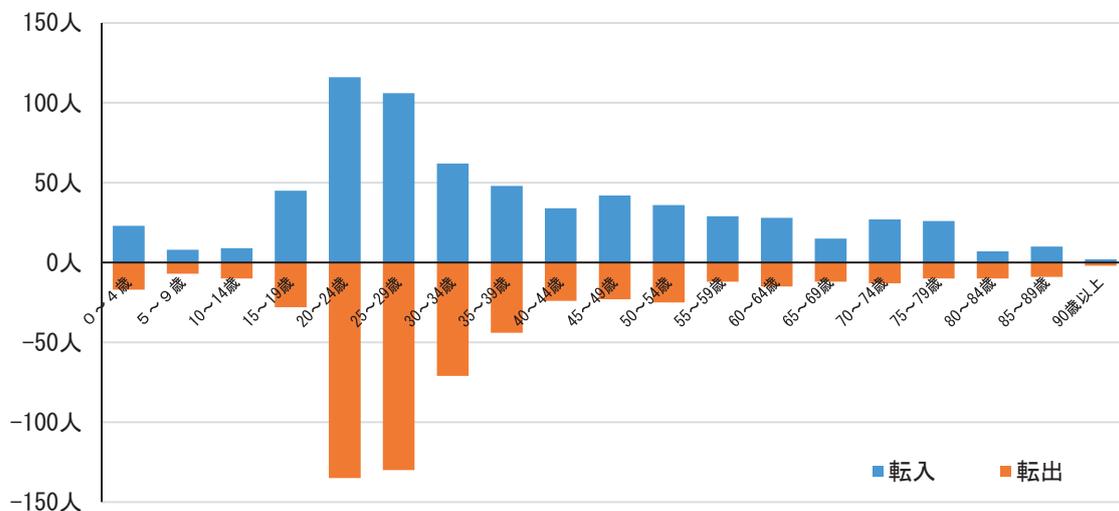


出典：住民基本台帳 人口移動報告書

また、令和5（2023）年の移動数について、性別・年齢区分別にみると、男性では“20歳～24歳”及び“25歳～29歳”、女性では“20歳～24歳”で大幅な転出超過となっています。

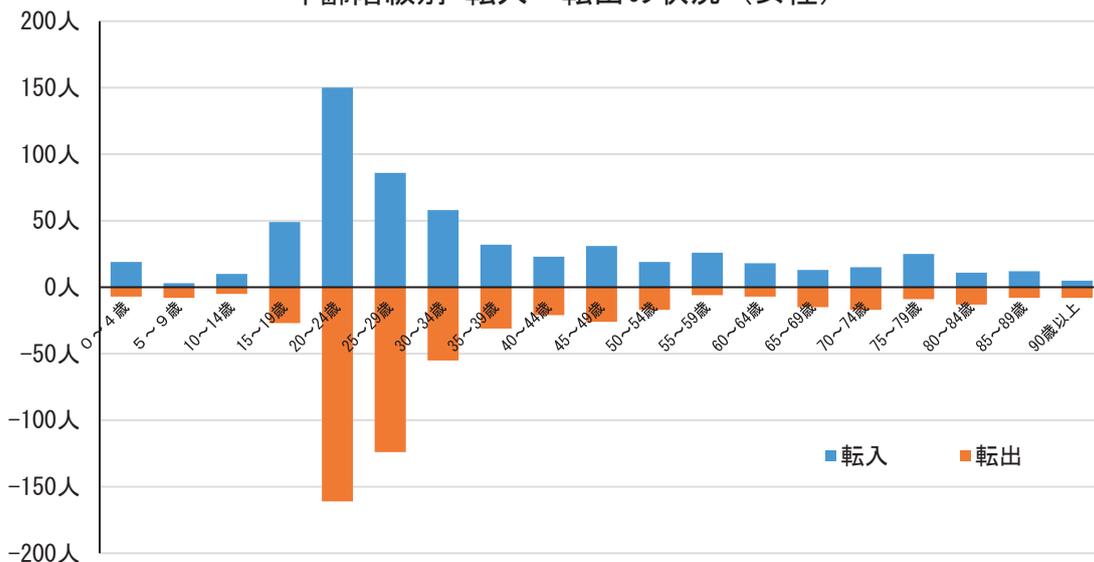
これは、進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因であると考えられます。

年齢階級別 転入・転出の状況（男性）



出典：住民基本台帳 人口移動報告書

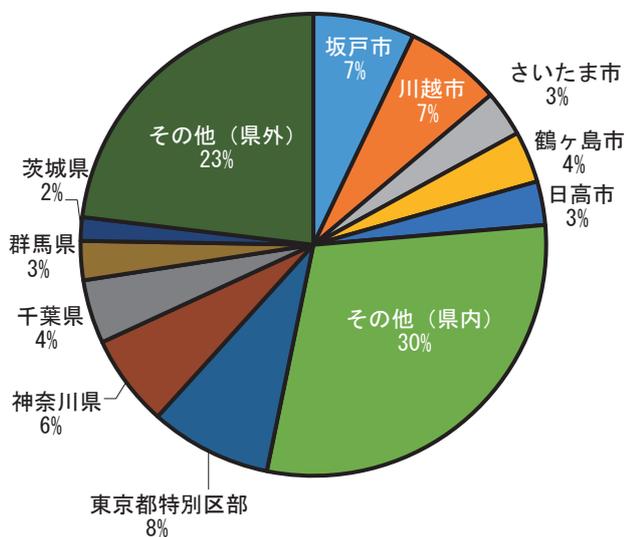
年齢階級別 転入・転出の状況（女性）



出典：住民基本台帳 人口移動報告書

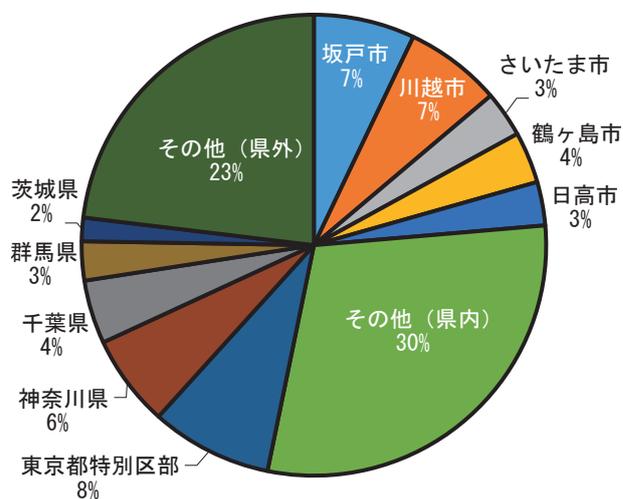
令和5（2023）年の転入・転出の状況を居住地別にみると、県内の移動が全体の5割以上を占めています。なお、県内では、転入・転出ともに坂戸市が最も多くなっています。次いで、川越市となっており、さいたま市への転入者及び転出者も多くいます。県外では、転入・転出ともに東京都特別区部が最も多くなっています。

転入の状況



※令和5年の転入者数：1,278人

転出の状況



※令和5年の転出者数：1,162人

出典：住民基本台帳 人口移動報告書

(6) その他

ア 通勤・通学の状況

令和2（2020）年の町内常住の就業者・通学者 19,096 人の従業・通学地についてみると、町内に通勤・通学している人が 8,647 人（45.3%）、他市町村が 10,159 人（53.2%）となっています。

他市町村の通勤・通学先は、坂戸市が最も多い 1,508 人（9.4%）、次いで川越市 1,156 人（7.2%）、日高市 1,136 人（7.1%）の順になっています。

他市町村常住の就業者・通学者で毛呂山町に通勤・通学している人をみると、坂戸市から通勤・通学している人が 1,502 人（18.5%）、次いで川越市 833 人（10.3%）となっています。

区分	町内		他市町村		不詳	計
	自宅で従業・通学	自宅外で従業・通学	県内の他市町村で従業・通学	県外の他市町村で従業・通学		
男	754	3,212	5,090	1,006	147	10,209
女	440	4,241	3,651	412	143	8,887
小計	1,194	7,453	8,741	1,418		
計	8,647 45.3%		10,159 53.2%		290	19,096

従業・通学地別の就業者・通学者数

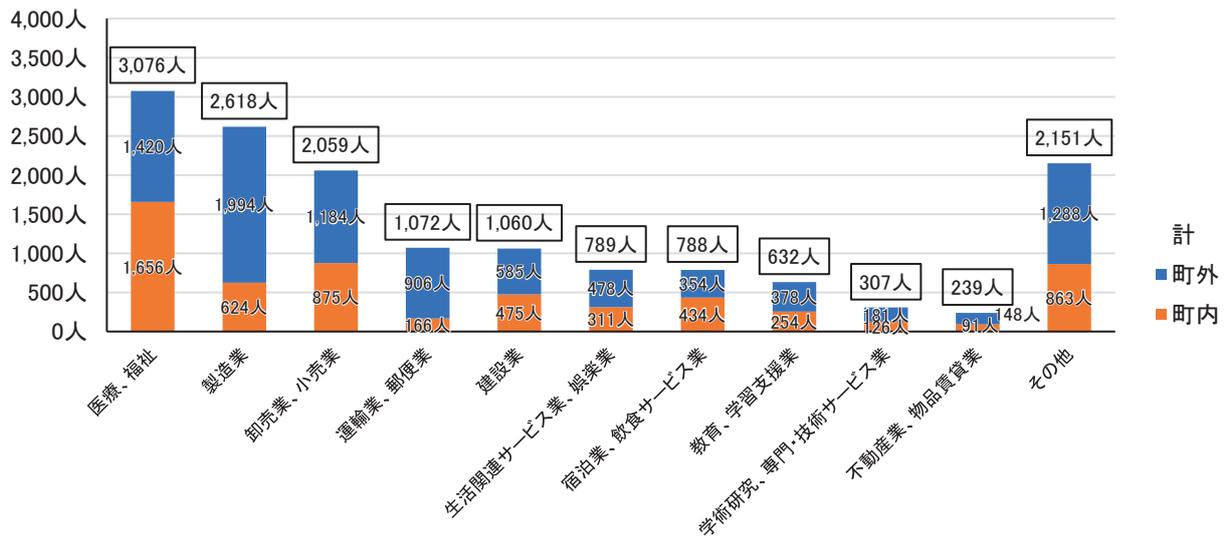
区分	毛呂山町から他市町村へ				他市町村から毛呂山町へ				
	総数	構成比	就業者	通学者	総数	構成比	就業者	通学者	
総数	15,986	100.0%	13,650	2,336	8,119	100.0%	6,247	1,872	
県内	坂戸市	1,508	9.4%	1,190	318	1,502	18.5%	1,289	213
	川越市	1,156	7.2%	1,001	155	833	10.3%	590	243
	日高市	1,136	7.1%	1,061	75	613	7.6%	559	54
	鶴ヶ島市	705	4.4%	653	52	765	9.4%	664	101
	東松山市	621	3.9%	563	58	403	5.0%	326	77
	越生町	530	3.3%	446	84	732	9.0%	694	38
	飯能市	343	2.1%	323	20	321	4.0%	270	51
	狭山市	306	1.9%	275	31	153	1.9%	87	66
	鳩山町	284	1.8%	271	13	203	2.5%	189	14
	さいたま市	216	1.4%	170	46	175	2.2%	102	73
	その他	7,657	47.9%	6,432	1,225	1,731	21.3%	1,143	588
計	14,462	90.5%	12,385	2,077	7,431	91.5%	5,913	1,518	
県外	東京都	1,284	8.0%	1,065	219	432	5.3%	248	174
	その他	129	0.8%	111	18	256	3.2%	86	180
計	1,413	8.8%	1,176	237	688	8.5%	334	354	
不詳	111	0.7%	89	22	0	0.0%	0	0	

出典：国勢調査

イ 就業の状況

令和2（2020）年の町内常住の就業者について産業分類別にみると、「医療、福祉」が3,076人と最も多く、そのうち町内で就業しているのは1,656人（53.8%）となっています。次いで、製造業が2,618人で、そのうち624人（23.8%）が町内で就業している状況です。

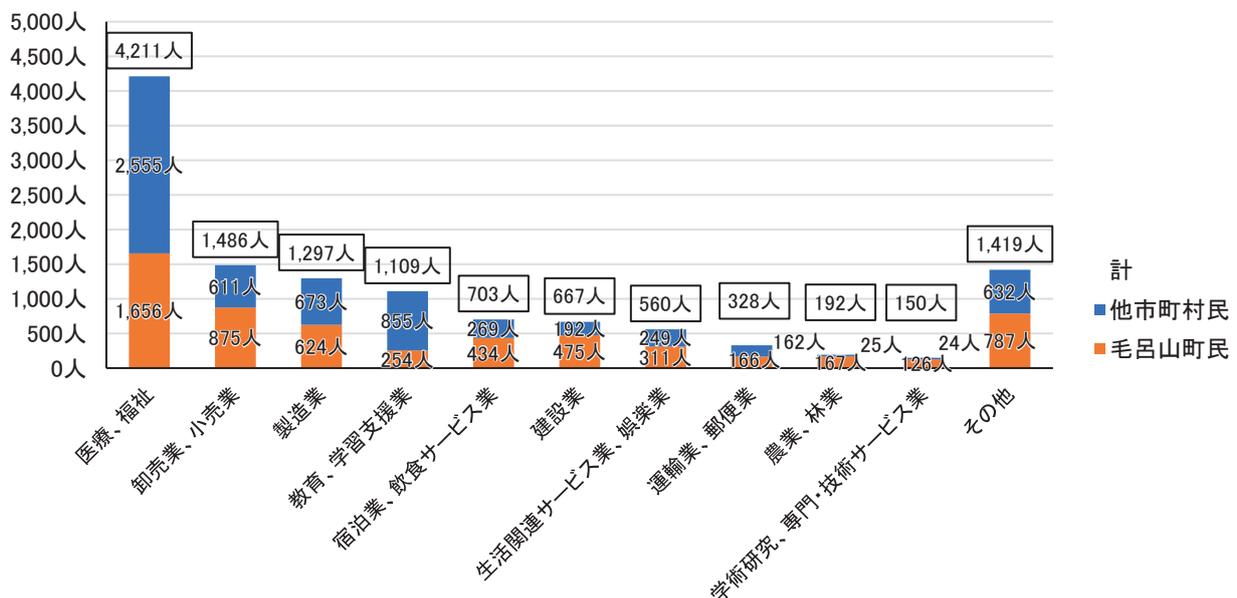
町内常住の就業者数(上位10産業)



出典：国勢調査

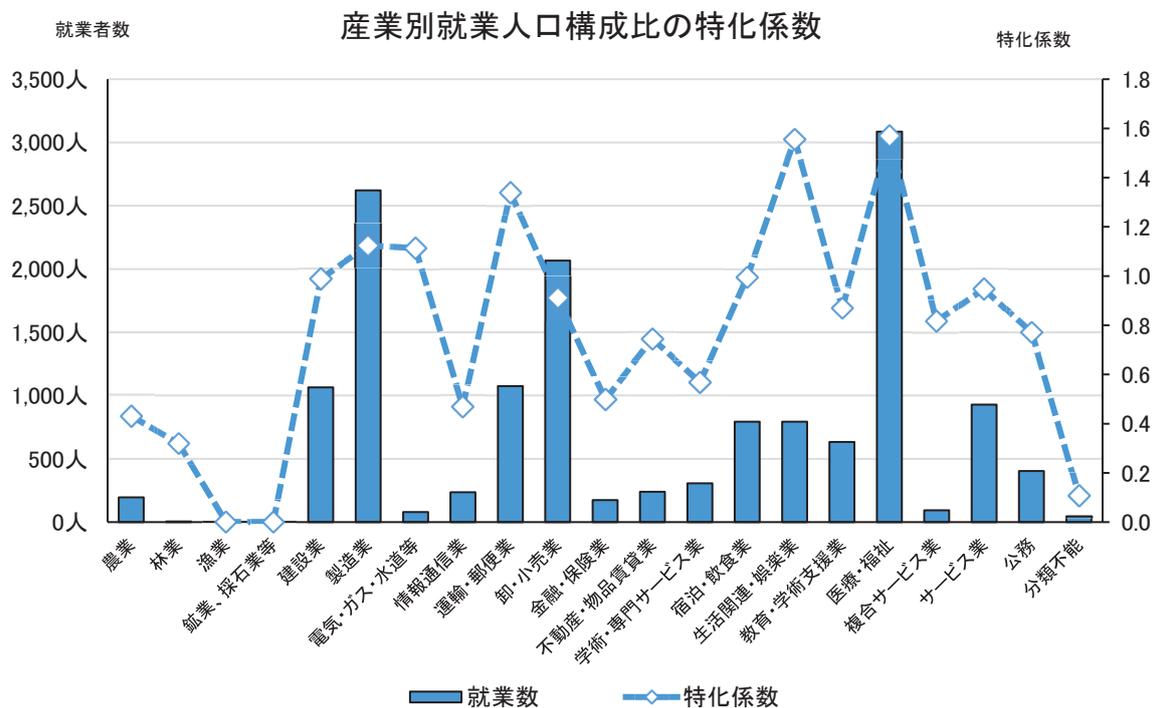
また、令和2（2020）年の町内従業の就業者について産業分類別にみると、「医療、福祉」が4,211人と最も多く、そのうち他市町村常住者は2,555人（60.7%）となっています。次いで、「卸売業、小売業」が1,486人で、そのうち他市町村常住の就業者は611人（41.1%）となっています。

町内従業の就業者数(上位10産業)



出典：国勢調査

本町の産業構造の特徴として、就業比率を全国と比較すると、「医療・福祉」及び「生活関連・娯楽業」が1.6、「運輸・郵便業」が1.3と、全国に比べ高いことがわかります。



出典：国勢調査

※特化係数とは、産業の業種構成などで、構成比を全国の構成比と比較した係数。1より大きい産業は、当該部門のウエイトが全国水準を上回っているといえる。

$$\text{特化係数} = \text{毛呂山町のA業の就業者比率} / \text{全国のAの就業者比率}$$

2 毛呂山町の将来人口の見通し

(1) 国勢調査人口

ア 推計条件について

国勢調査人口の将来人口は、以下の条件に基づき推計を行いました。

◆合計特殊出生率及び移動率について（詳細については、資料編1（1）及び（2）を参照）

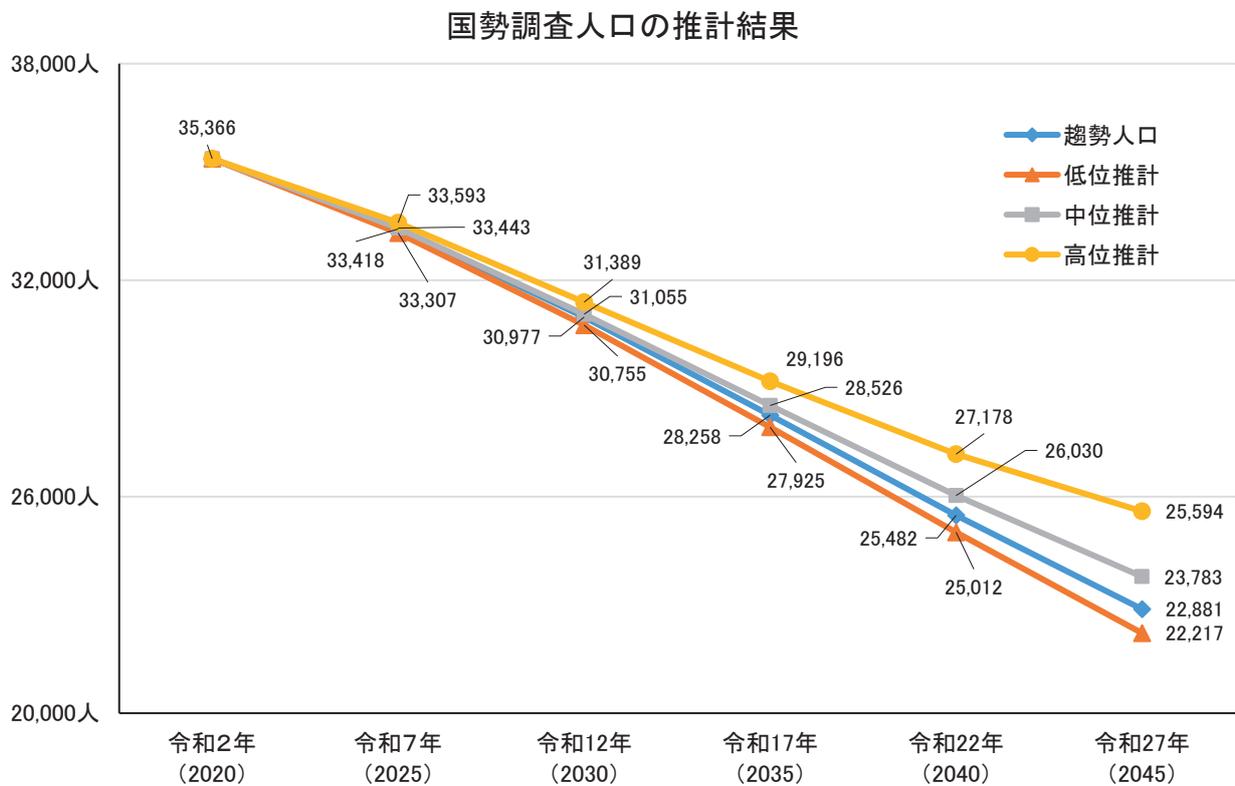
推計値	項目	推計に対する考え方
趨勢人口	合計特殊出生率	2022年の毛呂山町合計特殊出生率0.68を子ども女性比に換算して推計
	移動率	国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）が算出した2020年から2025年の移動率の仮定値と、毛呂山町における2005年から2020年までの国勢調査3区間の平均値を平均して使用
低位推計	合計特殊出生率	合計特殊出生率（低位推計）を子ども女性比に換算して推計
	移動率	社人研が算出した2020年から2025年の移動率の仮定値と、毛呂山町における2005年から2020年までの国勢調査3区間の平均値を平均して使用
中位推計	合計特殊出生率	合計特殊出生率（中位推計）を子ども女性比に換算して推計
	移動率	趨勢人口の移動率の内、30～34歳→35～39歳以下で転出超過となっている年齢層の移動率が、2050年以降半減するよう、2030年以降5年ごとに1/10改善する（2030年⇒2035年から改善し2050年以降半減）。
高位推計	合計特殊出生率	合計特殊出生率（高位推計）を子ども女性比に換算して推計
	移動率	趨勢人口の移動率の内、30～34歳→35～39歳以下で転出超過となっている年齢層の移動率が、2050年以降0（均衡）となるよう、2030年以降5年ごとに1/5改善する（2030年⇒2035年から改善し2050年以降0）。

◆その他の条件

項目	設定条件
生残率	社人研の「日本の地域別将来推計人口（毛呂山町）」に使用されている、2020年から2025年の仮定値が一定であるとして使用
人口性比	社人研の「日本の地域別将来推計人口（毛呂山町）」に使用されている仮定値を使用
0歳～4歳児の人口	合計特殊出生率を子ども女性比に換算した割合を用いて算出

イ 将来人口の見通しについて

「ア 推計条件」に基づき推計した結果は、以下のとおりです。

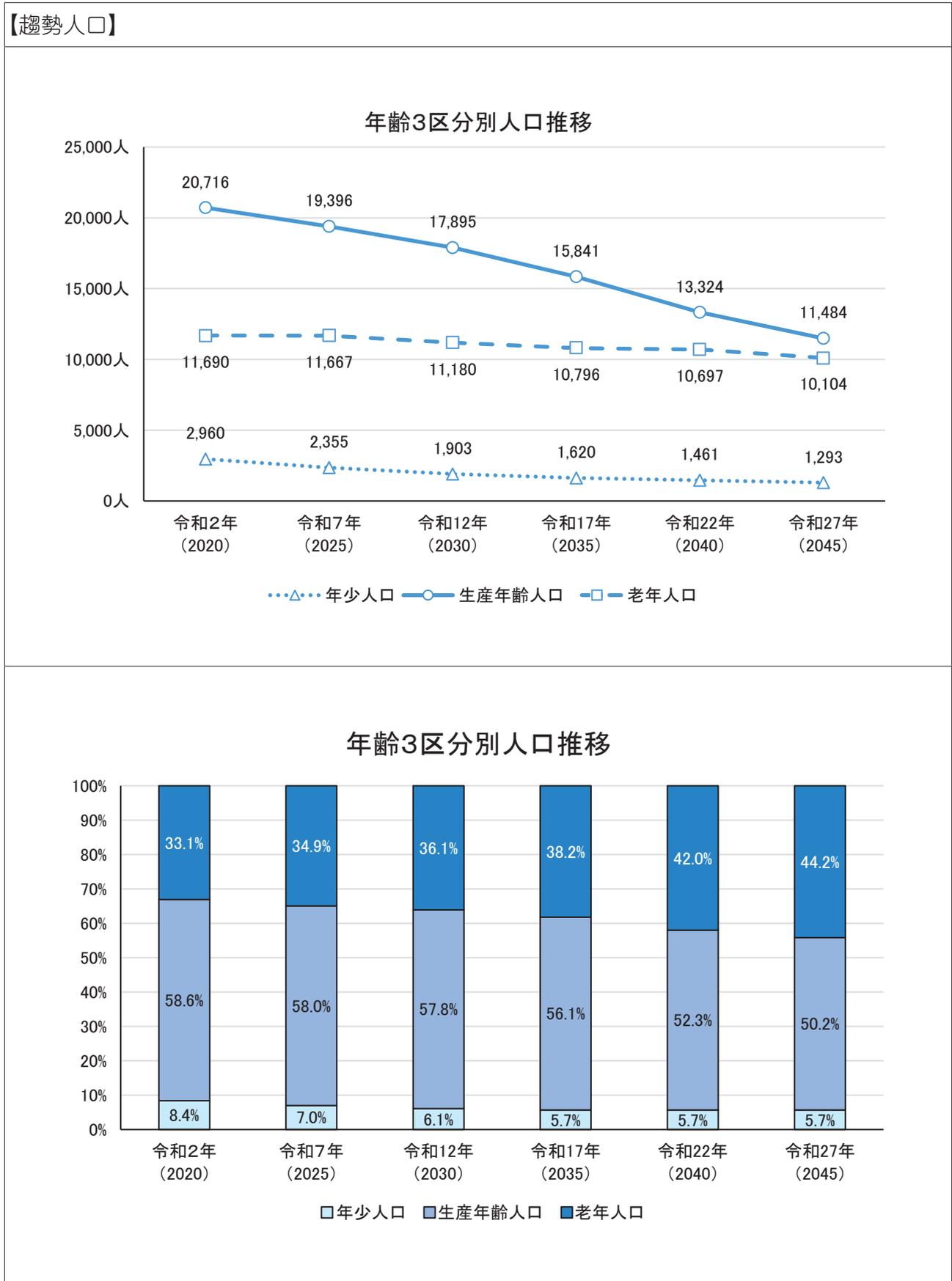


(単位：人)

	令和2年(2020)	令和7年(2025)	令和12年(2030)	令和17年(2035)	令和22年(2040)	令和27年(2045)
趨勢人口	35,366	33,418	30,977	28,258	25,482	22,881
低位推計	35,366	33,307	30,755	27,925	25,012	22,217
中位推計	35,366	33,443	31,055	28,526	26,030	23,783
高位推計	35,366	33,593	31,389	29,196	27,178	25,594

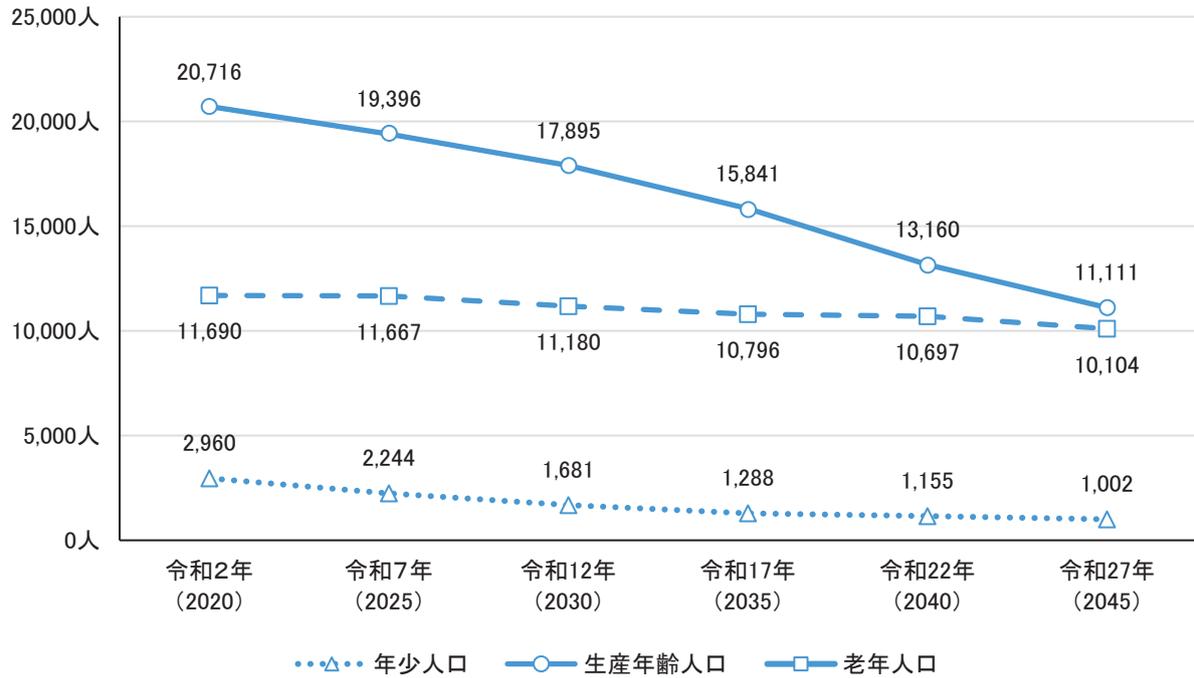
ウ 年齢3区分別人口について

「ア」で示した推計条件を基に推計した、年齢3区分別人口の推移は以下のとおりです。

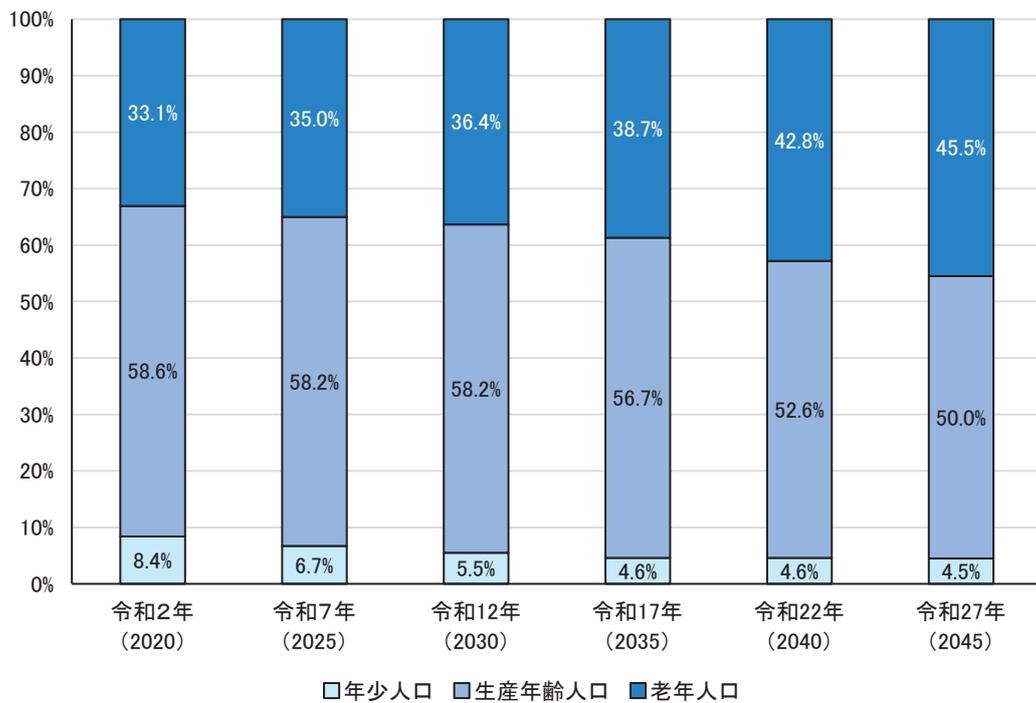


【低位推計】

年齢3区分別人口推移

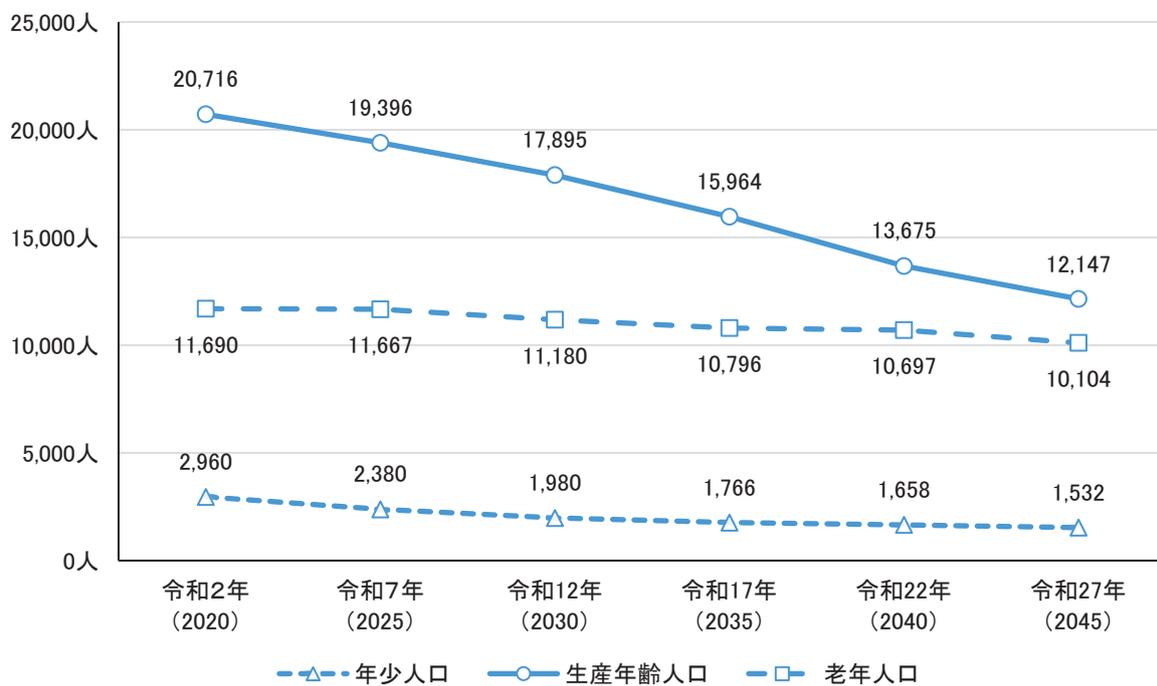


年齢3区分別人口推移

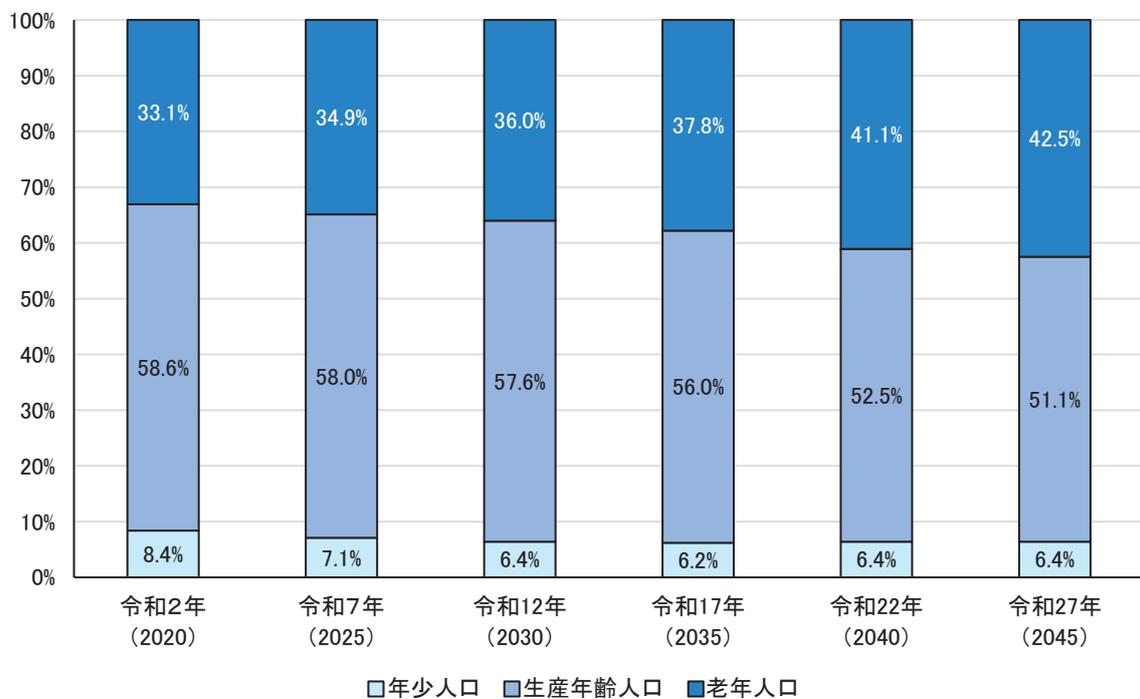


【中位推計】

年齢3区分別人口推移

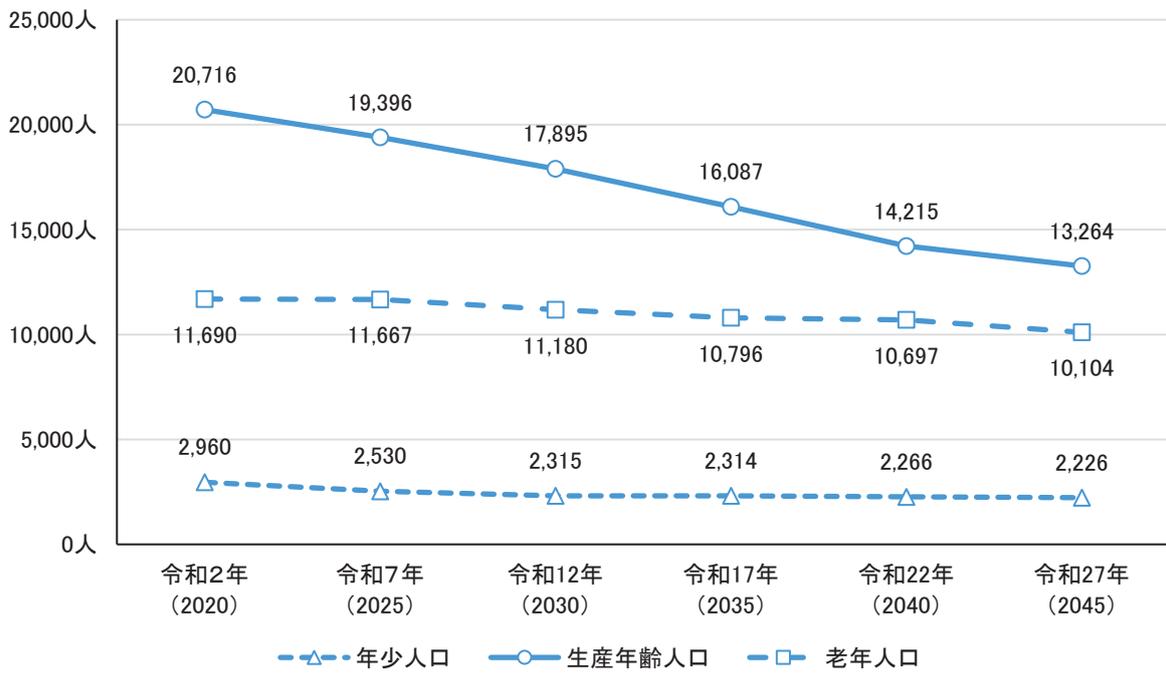


年齢3区分別人口推移

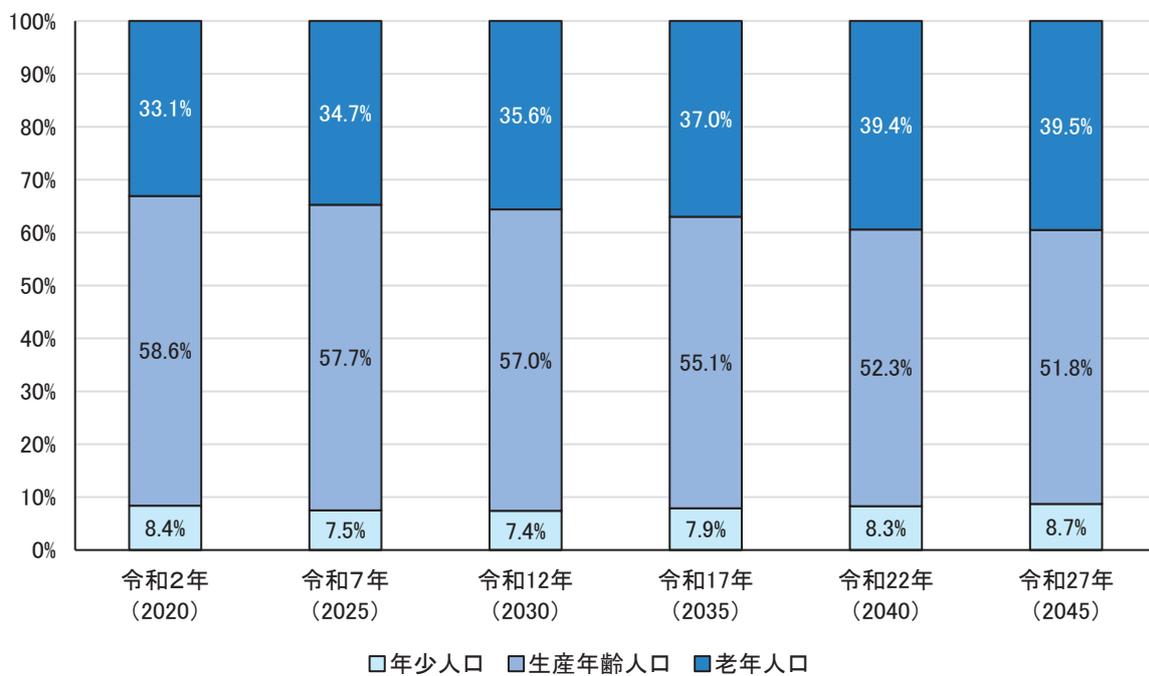


【高位推計】

年齢3区分別人口推移



年齢3区分別人口推移



(2) 住民基本台帳人口

ア 推計条件について

住民基本台帳人口の将来人口は、以下の条件に基づき推計を行いました。

◆合計特殊出生率及び移動率（詳細については、資料編1（1）及び（2）を参照）

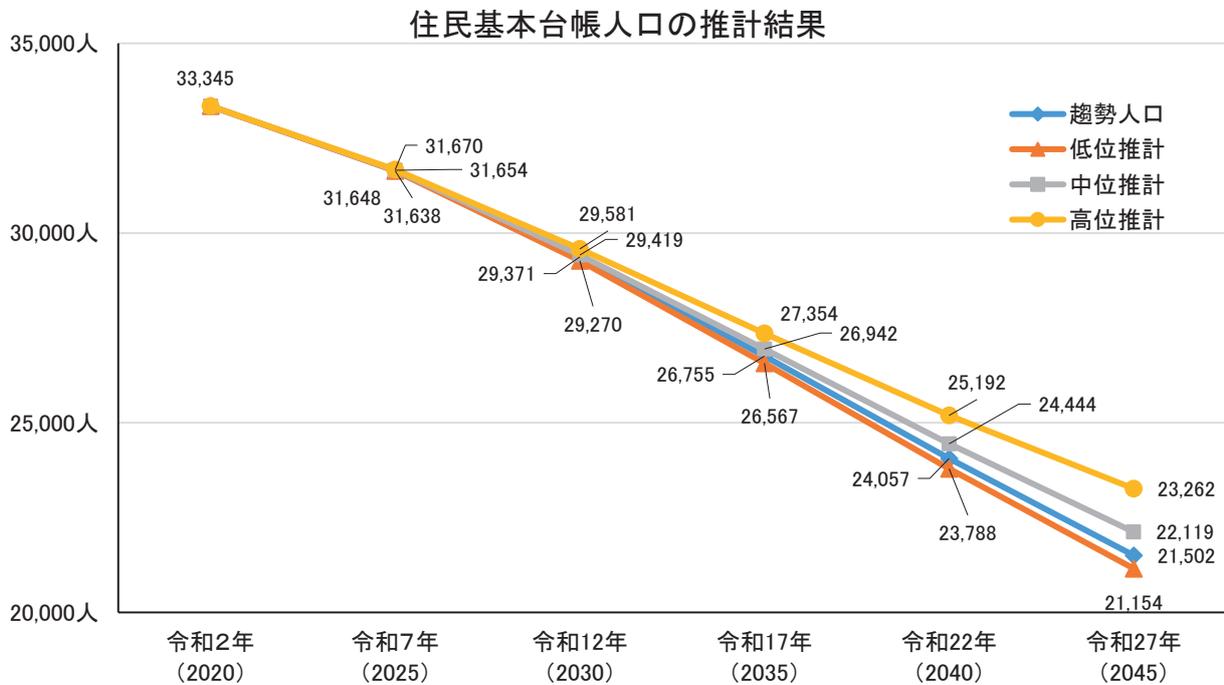
推計値	項目	推計に対する考え方
趨勢人口	合計特殊出生率	2022年の毛呂山町の合計特殊出生率 0.68 により推計
	移動率	2019年4月の男女別・年齢別の人口を基準に、2023年までの4年間の移動人口を算出し、4年間の平均移動率を使用
低位推計	合計特殊出生率	合計特殊出生率（低位推計）を使用
	移動率	2019年4月の男女別・年齢別の人口を基準に、2023年までの4年間の移動人口を算出し、4年間の平均移動率を使用
中位推計	合計特殊出生率	合計特殊出生率（中位推計）を使用
	移動率	趨勢人口の移動率の内、40歳以下で転出超過となっている年齢の移動率が、2050年以降半減するよう、2025年以降5年ごとに1/10改善する（2029年⇒2030年から改善し2049年⇒2050年から半減）。
高位推計	合計特殊出生率	合計特殊出生率（高位推計）を使用
	移動率	趨勢人口の移動率の内、40歳以下で転出超過となっている年齢の移動率が、2050年以降0（均衡）となるよう、2025年以降5年ごとに1/5改善する（2029年⇒2030年から改善し2049年⇒2050年から0）。

◆その他の条件

項目	設定条件
生残率	埼玉県 <small>の</small> 男女別、年齢別生残率を使用します（令和2年都道府県生命表）。
人口性比	2018年から2022年の5年間の埼玉県 <small>の</small> 性比を使用します。
0歳児の人口	2018年度から2022年度の5年間の男女別平均値を使用し、4月から3月の1年間の出生数と4月1日の0歳児の実数の変化割合により算出します。
100歳以上の人口	100歳以上の人口は、99歳以上人口の100歳以上人口への変化率を使用します。移動率同様、2019年4月を基準に、2023年4月までの男女別平均値を使用します。

イ 将来人口の見通しについて

「ア 推計条件」に基づき推計した結果は、以下のとおりです。

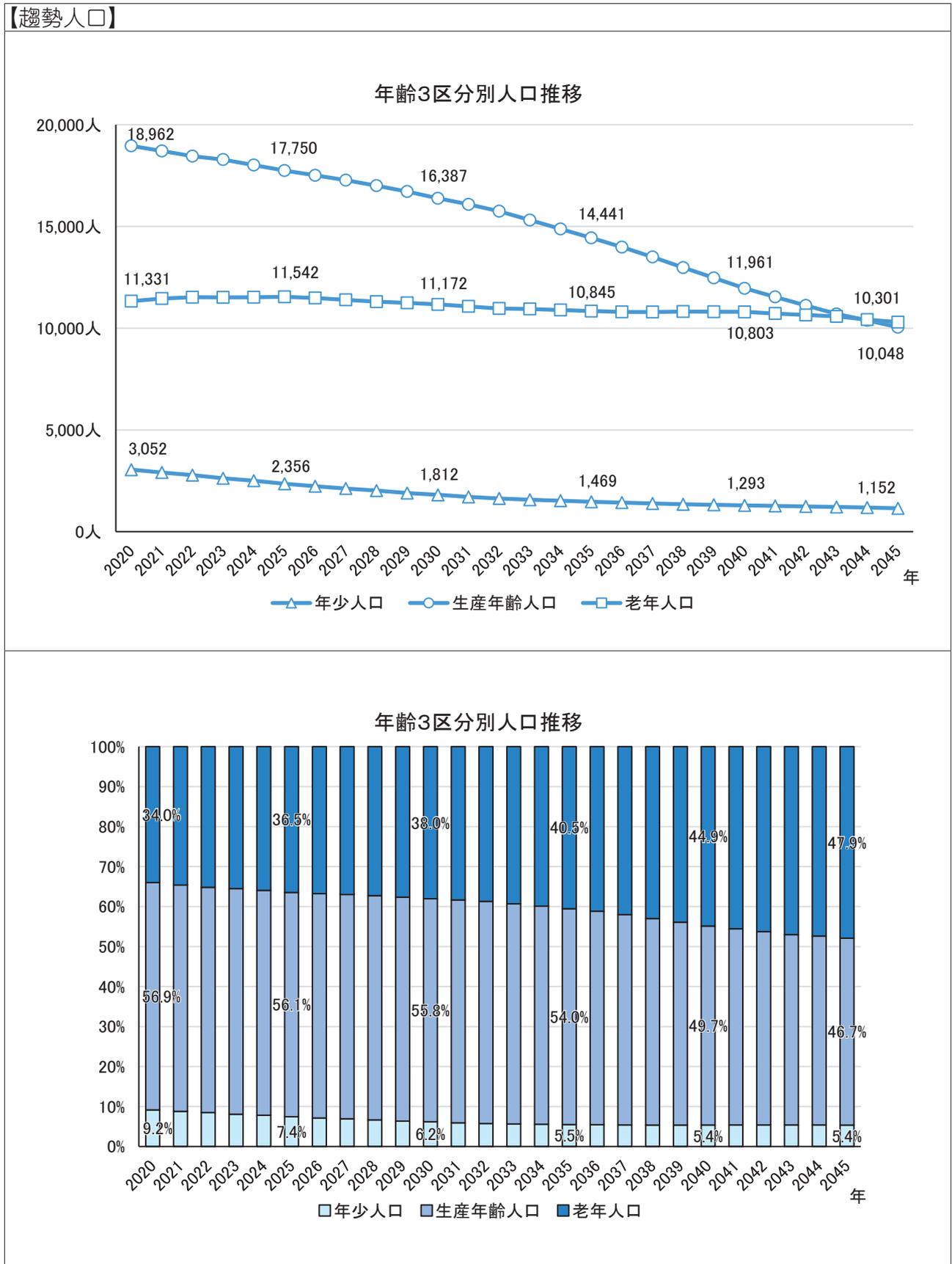


(単位：人)

	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
趨勢人口	33,345	31,648	29,371	26,755	24,057	21,502
低位推計	33,345	31,638	29,270	26,567	23,788	21,154
中位推計	33,345	31,654	29,419	26,942	24,444	22,119
高位推計	33,345	31,670	29,581	27,354	25,192	23,262

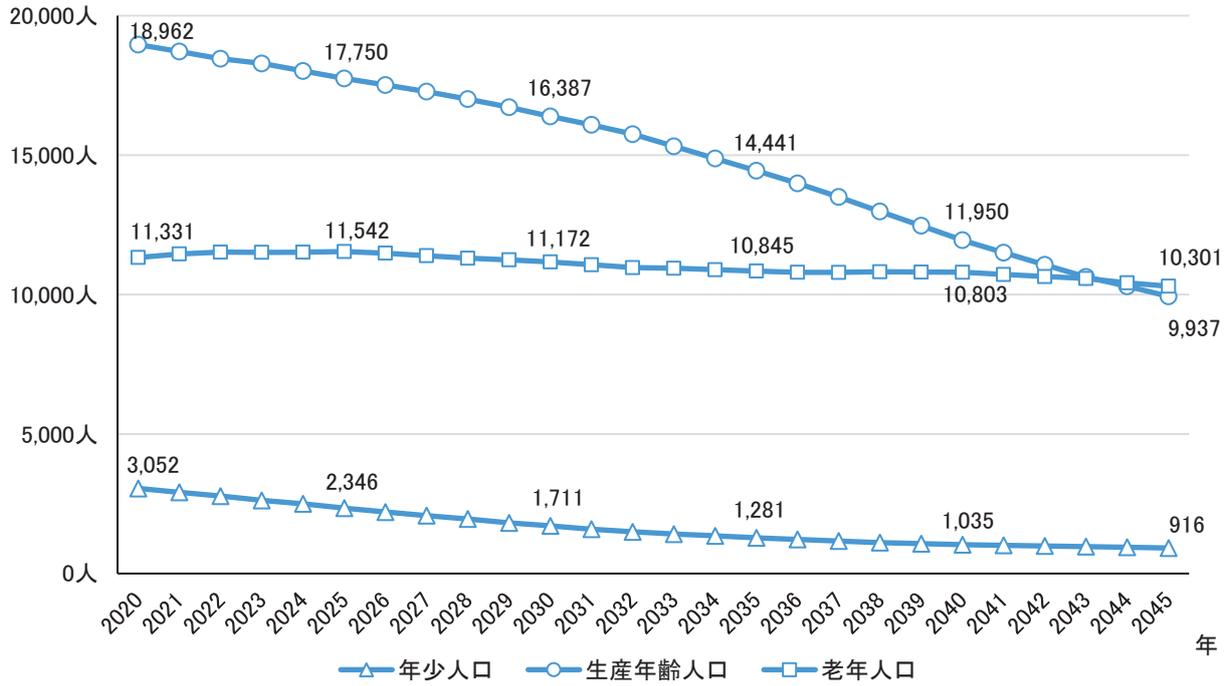
ウ 年齢3区分別人口について

「ア」で示した推計条件を基に推計した、年齢3区分別人口の推移は以下のとおりです。

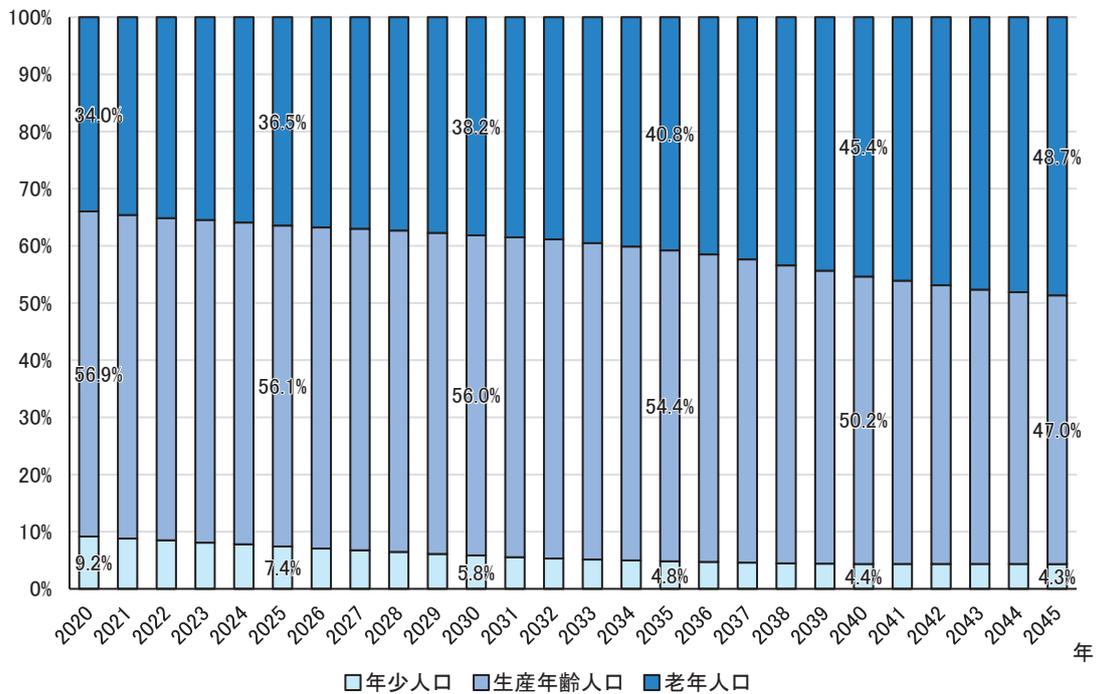


【低位推計】

年齢3区分別人口推移

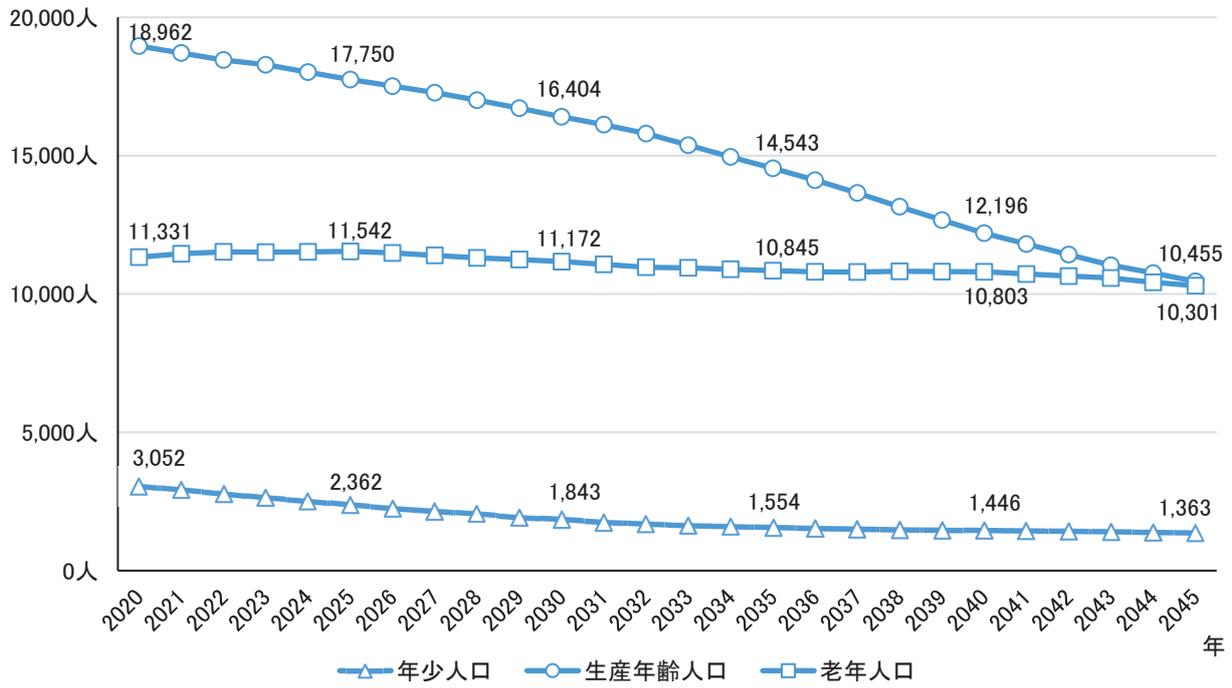


年齢3区分別人口推移

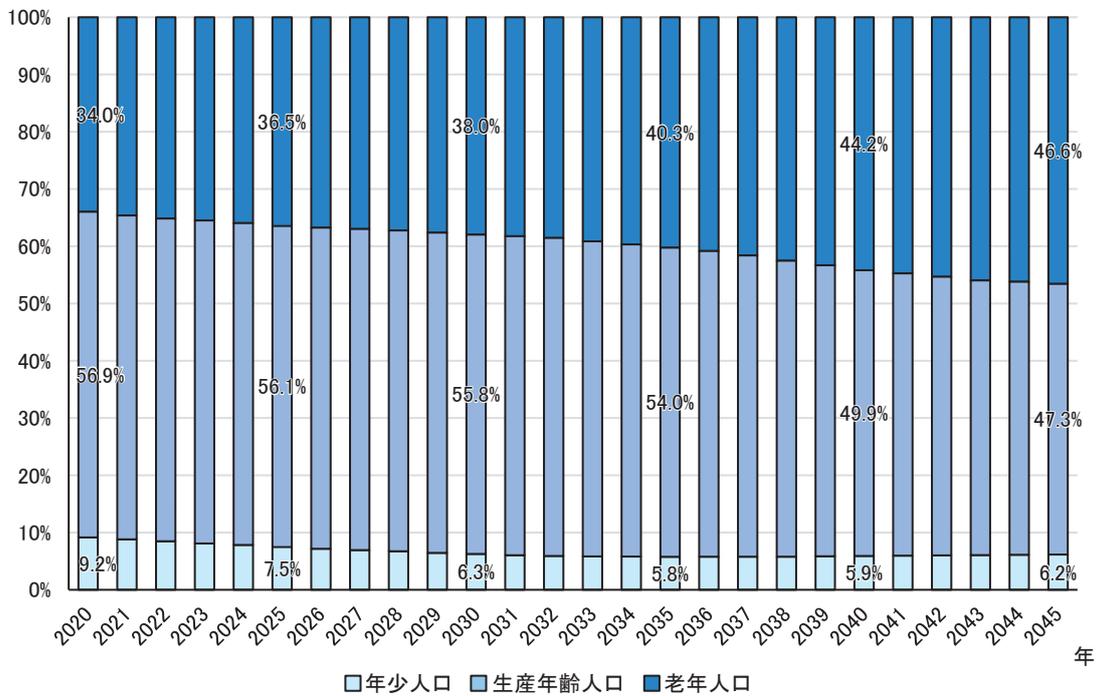


【中位推計】

年齢3区分別人口推移

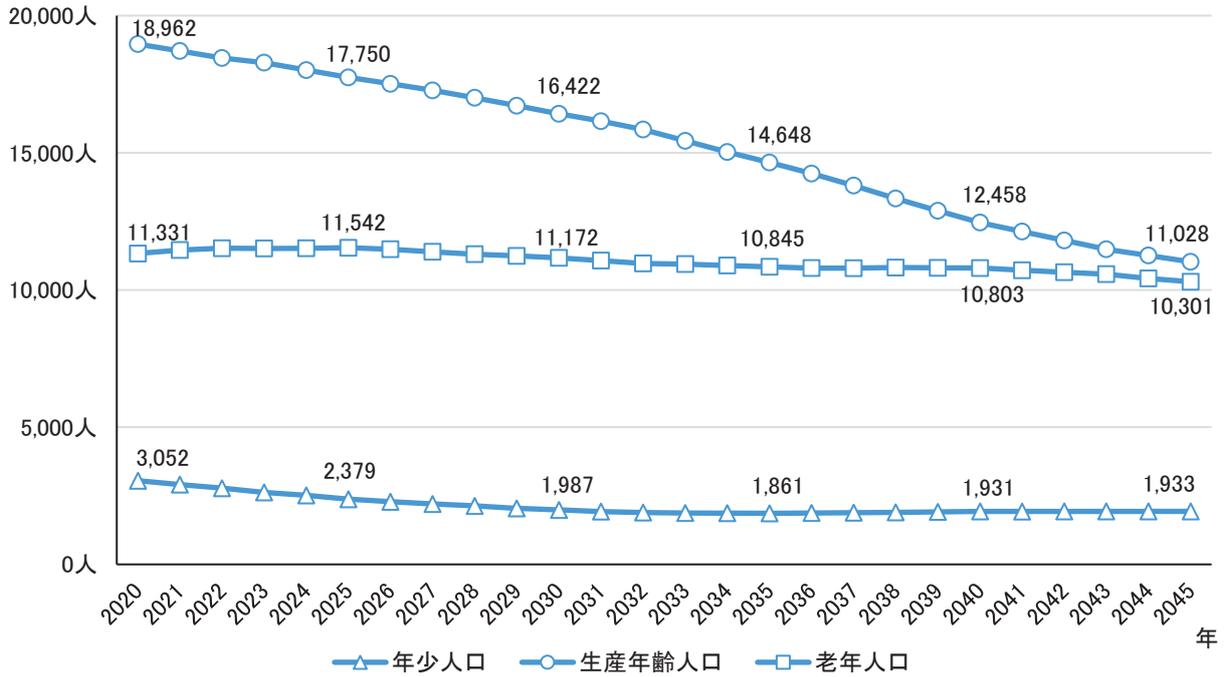


年齢3区分別人口推移

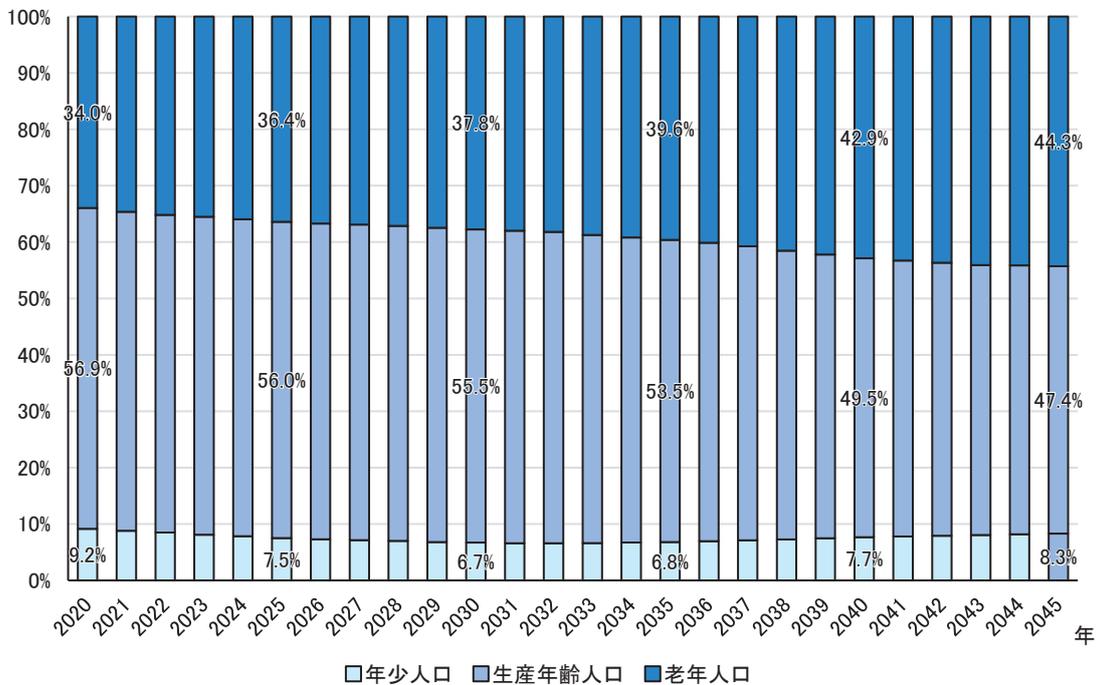


【高位推計】

年齢3区分別人口推移



年齢3区分別人口推移



3. 毛呂山町における人口動向・構造の特性と課題

(1) 特性

- 本町の総人口は、国勢調査人口においては、平成7（1995）年の39,808人をピークに減少過程に入り、その後は緩やかに減少傾向で推移しており、令和2（2020）年には35,366人となっています。
この間に、年少人口（0～14歳）比率は14.5%から8.6%に減少したのに対し、高齢化率は10.5%から33.6%に増加しており、少子高齢化が更に進行しています。
住民基本台帳人口においては、過去10年間（平成27年～令和6年）の推移をみると、緩やかに減少傾向で推移しています。
- 出生数については、令和元（2019）年の110人から令和5（2023）年には101人になっており、減少傾向で推移しています。
- 令和元（2019）年から令和5（2023）年の5年間の合計特殊出生率は、ほぼ横ばいで推移していますが、全国・埼玉県と比較して低く、全ての年で1.0を下回っています。
- 死亡者数については、増加傾向で推移しています。出生数と合わせた自然動態では、自然減の幅が拡大傾向にあります。
- 転入については令和5年では年間1,278人、転出については1,162人となっており、これらを合わせた社会動態としては、116人の転入超過となっています。
- 転入・転出といった移動の特に多い年代は、男女ともに20～29歳であり、進学、就職及び結婚等のライフイベントに伴う移動と考えられます。
- 転入元・転出先については、転入・転出ともに坂戸市が最も多く、次いで川越市となっています。
- 通勤・通学の状況については、町内常住の就業者・通学者19,096人のうち、町内に通勤・通学している人が8,647人（45.3%）、他市区町村が10,159人（53.2%）となっています。
- 町外への通勤・通学先として最も多いのは坂戸市であり、次いで川越市、日高市の順となっています。
- 逆に、本町への通勤・通学については、坂戸市から通勤・通学している人が最も多くなっており、次いで、川越市、鶴ヶ島市、越生町の順となっています。
- 令和2（2020）年の町内従業の就業者について産業分類別にみると、医療・福祉が4,211人と最も多く、そのうち他市区町村常住者は2,555人となっています。

(2) 課題

- これまでと同様に、高齢化した人口構造を背景に、死亡者数を大きく減少させることは困難と考えられます。したがって、今後の人口政策としては、引き続き出生数の増加及び転入促進・転出抑制が重要になってきます。
- 男女ともに、若い世代の転出が多くなっているため、若い世代の転出抑制を図ることが重要になってきます。

○合計特殊出生率が低水準で推移しており、また出生数も減少傾向にあります。子育て環境の充実を図るとともに、結婚を希望する方への支援が極めて重要になってくるものと考えられます。

Ⅲ. 毛呂山町の人口の将来展望

1. 将来を見据えた人口問題に対する取組の考え方

○国勢調査人口においては、令和2（2020）年の35,366人から、今後の趨勢人口として2045年には22,881人まで減少することが見込まれます。

住民基本台帳人口においては、令和2（2020）年の33,345人から、今後の趨勢人口として2045年には21,502人まで減少することが見込まれます。

○人口規模の大きな縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口も減少することから、地域経済の縮小にも結びつきます。また、人口減少の進行に応じて、商業施設等の撤退も懸念され、日常の買い物のみならず、医療等の生活に欠かせない社会サービスが十分に受けられない事態が生じる可能性があります。

○人口の問題は規模の問題だけでなく、人口の年齢構造の問題でもあります。今後も少子高齢化の傾向が続くことは、高齢人口が増加することによる更なる社会保障関連経費の増加及び生産年齢人口の減少に伴う地域活動の担い手不足や地域コミュニティの機能低下等を招くことが懸念されます。

○本町では、こうした趨勢人口を踏まえた上で、合計特殊出生率の上昇並びに移動率の改善を図ることにより、長期的視点から人口減少の抑制に取り組むこととし、その目標として目指すべき将来の戦略人口を設定します。

2. 戦略人口と将来展望

（1）戦略人口

本町における国勢調査人口は、2020年の総人口35,366人から、今後の趨勢人口として2045年には22,881人まで減少することが見込まれます。

また、住民基本台帳人口については、2020年の総人口33,345人から、今後の趨勢人口として2045年には21,502人まで減少することが見込まれます。

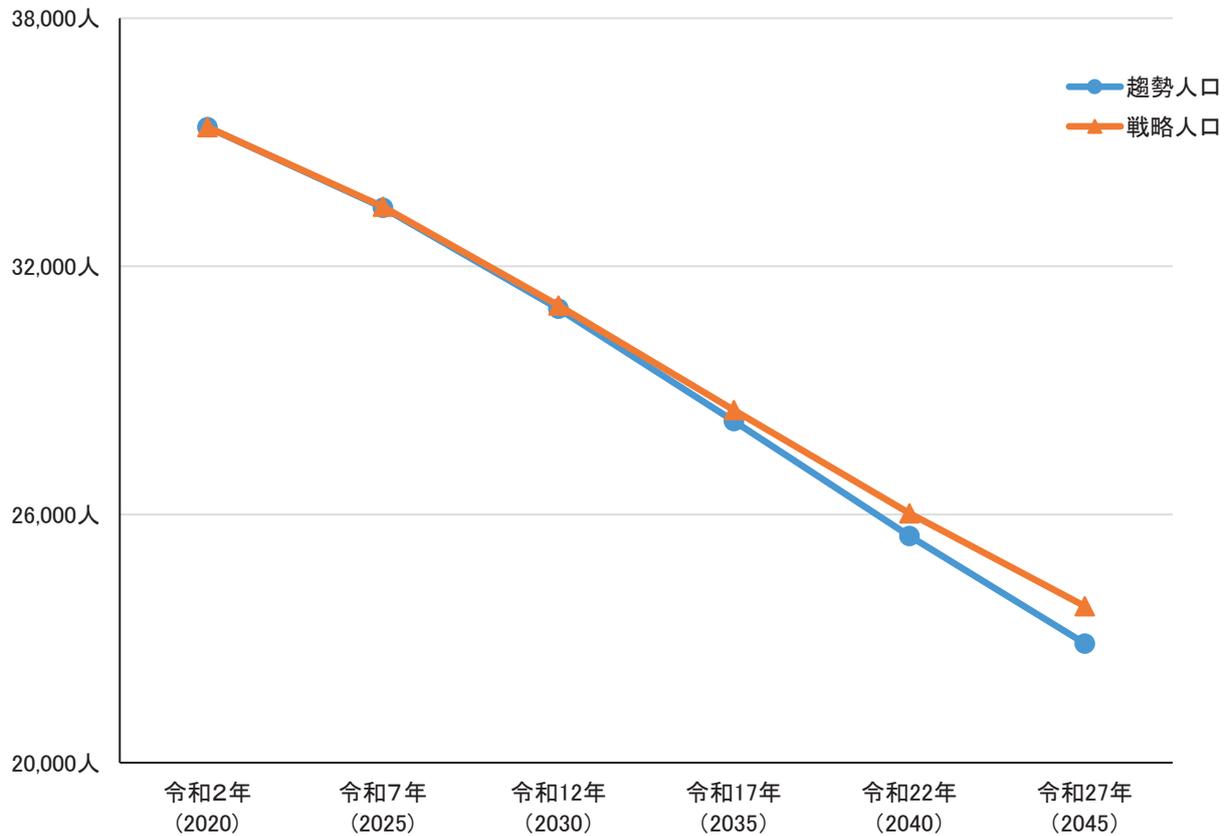
本町では、こうした趨勢人口の推計を踏まえ、第六次毛呂山町総合振興計画基本構想・前期基本計画等に掲げられている各種施策を着実に実施することにより、合計特殊出生率の上昇並びに移動率の改善を図り、長期的視点から人口減少の抑制に取り組むこととし、その目標として目指すべき将来の戦略人口を設定します。

戦略人口については、国勢調査人口及び住民基本台帳人口ともに、低位推計、中位推計及び高位推計の内、現実的な数値として考えられる中位推計の値を採用することとします。

ア. 国勢調査人口における戦略人口

国勢調査人口については、戦略人口として2045年において23,800人程度の人口規模を目指します。

国勢調査人口

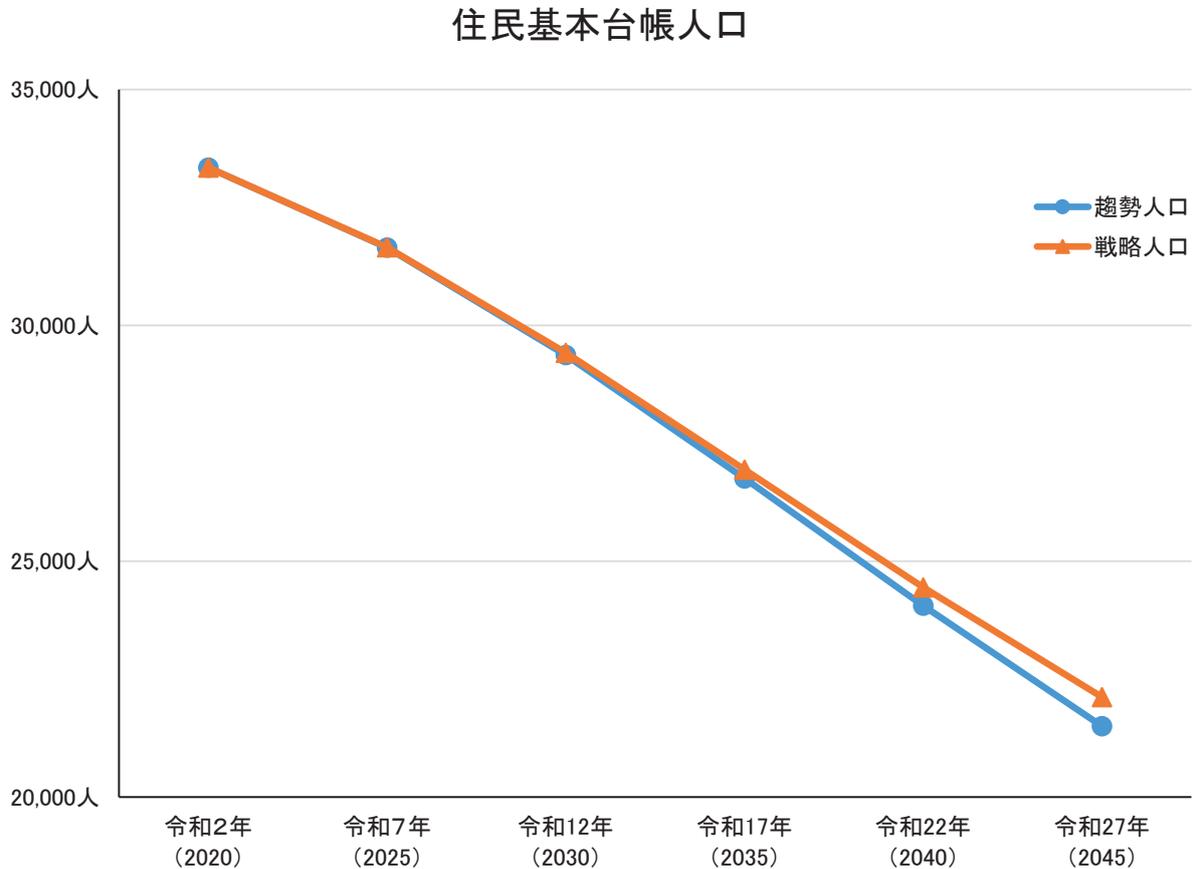


(単位：人)

	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
趨勢人口	35,366	33,418	30,977	28,258	25,482	22,881
戦略人口	35,366	33,443	31,055	28,526	26,030	23,783
戦略効果 (戦略人口－趨勢人口)		25	78	268	548	902

イ. 住民基本台帳人口における戦略人口

住民基本台帳人口については、戦略人口として、2045年において22,100人程度の人口規模を目指します。



(単位：人)

	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
趨勢人口	33,345	31,648	29,371	26,755	24,057	21,502
戦略人口	33,345	31,654	29,419	26,942	24,444	22,119
戦略効果 (戦略人口－趨勢人口)		6	48	187	387	617

3. 目指すべき将来の方向性

①結婚や出産など若い世代の希望をかなえる必要があります。

合計特殊出生率や出生数が低い水準で推移していることから、安心して出産や子育てができる環境整備や仕組みづくりなどを行い、「毛呂山町で子どもを育てたい」と思ってもらえるまちづくりを進めます。

また、結婚を希望する方が、その希望をかなえられるよう、結婚支援や若年層の経済的不安の解消につながる取組を行います。

②若い世代が住み続けたいと思う魅力あるまちづくりを進める必要があります。

町内及び近隣市町に大学などが立地していることで若い世代の転入が見られるため、そのまま若い世代に定住してもらえるように、また、進学や就職などで町を離れた若い世代がふるさとである毛呂山町に戻ってきたくなるような定住促進施策の推進や町の魅力向上を図っていきます。

資料編

1. 推計条件

(1) 合計特殊出生率

人口推計を行うにあたり、以下の合計特殊出生率を使用します。

人口推計で用いる合計特殊出生率

	2020年～	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
高位推計	0.76	0.90	0.98	1.02	1.03	1.04
中位推計	0.70	0.71	0.75	0.76	0.76	0.77
低位推計	0.64	0.54	0.55	0.53	0.53	0.54

◆人口推計で用いる合計特殊出生率の計算方法

社人研が行っている将来人口推計(令和5年推計)で使用している合計特殊出生率(低位・中位・高位)と、本町の合計特殊出生率が将来的に同幅で推移するものとして推計します。

2022年の国の合計特殊出生率 1.26 と毛呂山町の合計特殊出生率 0.68 の差分である 0.58 を基準とします。

※計算式：社人研仮定値(全国版) - 0.58

(例) 2025年における中位推計の値の場合

$$1.28746 - 0.58 = 0.70746 \div 0.71$$

◆社人研仮定値(2025年以降は、5年間の平均値)

	年	中位	高位	低位
実績	2020	1.3298	1.3298	1.3298
実績	2021	1.3028	1.3028	1.3028
実績	2022	1.2565	1.2565	1.2565
	2023	1.2251	1.3721	1.0891
	2024	1.2681	1.4276	1.1206
	平均	1.2765	1.3378	1.2198
	2025	1.28746	1.47386	1.11738
	2030	1.3257	1.55748	1.12148
	2035	1.33378	1.59618	1.11084
	2040	1.33562	1.60942	1.1073
	2045	1.3415	1.61728	1.11252

(2) 国勢調査基準の0歳～4歳児の子どもの数

国勢調査は5年ごとに実施されるため、0歳～4歳児の子どもの数は、子ども女性比（※）より推計します。

今回の推計に使用する合計特殊出生率を子ども女性比に変換する割合を、社人研の推計する出生中位・死亡中位推計に使用している合計特殊出生率の5年平均と、5年ごとの子ども女性比の割合から計算します。

国勢調査基準の0歳～4歳児の子どもの数は、低位・中位・高位推計に使用する合計特殊出生率と下記換算率を用いて推計します。

(※) 子ども女性比

…日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）に従い、20歳～44歳までの女性に対する、0歳～4歳児の子どもの数の割合

(単位：1,000人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0歳～4歳児の人数(A)	4,541	3,952	3,865	3,832	3,680	3,472
20歳～44歳の女性の人数(B)	17,343	16,160	15,435	15,002	14,459	13,553
子ども女性比(C=A/B)	0.26185	0.24458	0.25037	0.25540	0.25451	0.25620
平均合計特殊出生率(D)		1.28746	1.3257	1.33378	1.33562	1.3415
換算率(D/C)		5.26395	5.29487	5.22233	5.24775	5.23620

(3) 住民基本台帳に基づく3推計の基準となる年齢階層別合計特殊出生率

毎年の出生数は、合計特殊出生率（母親の年齢階層別）から推計します。

合計特殊出生率は、母親の年齢別の出生率の和であることから、年齢階層別の割合を算出します。算出するにあたり、以下の表の年齢階層別出生率を使用します。

なお、算出にあたっては、平成30年から令和4年の5年間の母親の年齢階層別出生率の平均値を使用します。

母親の年齢階層別合計特殊出生率（単位：人）

	19歳以下	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳以上	合計
子どもの数	7	66	145	175	123	26	1	543
母親の数	3,809	4,972	3,507	3,282	3,858	5,089	6,220	30,737
出生率	0.009189	0.066372	0.206729	0.266606	0.159409	0.025545	0.000804	0.734654

(4) 移動率

ア 国勢調査人口推計にあたっての移動率

「社人研推計の2020年から2025年の移動率の仮定値」と「2005年から2020年の国勢調査3区間より求めた移動率の平均値」を平均した、以下の値を使用します。推計にあたっては、30歳～34歳→35歳～39歳以下の転出超過部分を改善させる方向で推計しています。

	移動率	
	男性	女性
0～4歳→5～9歳	0.09685	0.13268
5～9歳→10～14歳	0.02052	0.00887
10～14歳→15～19歳	0.28485	0.31847
15～19歳→20～24歳	0.30921	0.49093
20～24歳→25～29歳	-0.39825	-0.43546
25～29歳→30～34歳	-0.12827	-0.20551
30～34歳→35～39歳	-0.02435	-0.02578
35～39歳→40～44歳	0.02707	-0.00256
40～44歳→45～49歳	0.02204	0.00832
45～49歳→50～54歳	-0.01309	0.00947
50～54歳→55～59歳	0.02660	0.00274
55～59歳→60～64歳	0.01768	0.01989
60～64歳→65～69歳	0.02065	0.00693
65～69歳→70～74歳	0.00314	0.01131
70～74歳→75～79歳	-0.01146	-0.00981
75～79歳→80～84歳	-0.03131	-0.02057
80～84歳→85～89歳	-0.06835	-0.01926
85～89歳→90～94歳	-0.01834	-0.04629
90歳～→95歳～	-0.00879	-0.01887

※ マイナス部分は転出超過

イ 住民基本台帳人口推計にあたっての移動率

2019年4月の男女別・年齢別の人口を基準に、2023年までの4年間の移動人口を算出し、4年間の平均移動率を使用します。推計にあたっては、40歳以下の転出超過部分を改善させる方向で推計します。

【男性】

年齢	移動率	年齢	移動率	年齢	移動率	年齢	移動率
0	0.9943	26	-0.0522	52	-0.0036	78	0.0062
1	0.0427	27	-0.0454	53	0.0116	79	0.0158
2	0.0081	28	-0.0402	54	0.0153	80	0.0073
3	0.0359	29	-0.0069	55	0.0014	81	0.0112
4	0.0062	30	-0.0413	56	0.0073	82	0.0035
5	0.0234	31	-0.0295	57	0.0019	83	-0.0190
6	-0.0186	32	0.0394	58	0.0045	84	-0.0180
7	0.0040	33	0.0171	59	0.0124	85	-0.0249
8	0.0111	34	0.0137	60	-0.0062	86	0.0082
9	0.0047	35	-0.0013	61	-0.0015	87	-0.0304
10	0.0027	36	0.0018	62	0.0048	88	-0.0402
11	0.0041	37	0.0078	63	0.0029	89	0.0052
12	-0.0124	38	-0.0182	64	0.0038	90	-0.0655
13	0.0023	39	-0.0041	65	0.0028	91	-0.0297
14	0.0075	40	0.0197	66	-0.0092	92	-0.1013
15	-0.0126	41	0.0030	67	0.0033	93	0.0231
16	0.0037	42	-0.0033	68	0.0001	94	0.1099
17	0.0088	43	0.0006	69	-0.0075	95	0.0561
18	0.0171	44	-0.0051	70	0.0090	96	-0.0297
19	0.0770	45	0.0022	71	-0.0051	97	0.0885
20	0.0016	46	-0.0021	72	0.0105	98	0.1898
21	0.0248	47	0.0061	73	0.0109	99	0.2307
22	-0.0599	48	0.0002	74	0.0061	100～	0.5917
23	-0.0366	49	-0.0010	75	-0.0139		
24	-0.0657	50	-0.0032	76	0.0037		
25	-0.0420	51	0.0072	77	0.0078		

※ マイナス部分は転出超過

【女性】

年齢	移動率	年齢	移動率	年齢	移動率	年齢	移動率
0	1.0081	26	-0.0707	52	0.0064	78	0.0026
1	0.1146	27	-0.1245	53	-0.0040	79	0.0003
2	0.0377	28	-0.0488	54	-0.0005	80	-0.0014
3	-0.0206	29	-0.0583	55	0.0017	81	-0.0036
4	0.0332	30	0.0156	56	0.0091	82	-0.0040
5	0.0053	31	-0.0323	57	0.0128	83	-0.0229
6	0.0177	32	0.0146	58	-0.0037	84	-0.0070
7	-0.0001	33	-0.0246	59	0.0052	85	-0.0185
8	-0.0204	34	-0.0227	60	0.0104	86	-0.0250
9	0.0036	35	0.0067	61	-0.0045	87	-0.0150
10	-0.0112	36	-0.0151	62	-0.0042	88	0.0177
11	0.0024	37	0.0163	63	0.0023	89	-0.0037
12	0.0000	38	-0.0118	64	0.0070	90	0.0191
13	0.0081	39	-0.0056	65	0.0041	91	-0.0467
14	0.0001	40	0.0060	66	0.0033	92	-0.0265
15	-0.0036	41	0.0063	67	-0.0044	93	0.0058
16	0.0078	42	0.0024	68	-0.0029	94	0.0157
17	-0.0015	43	0.0028	69	0.0016	95	-0.0442
18	0.0331	44	0.0061	70	-0.0003	96	0.0387
19	0.1345	45	0.0004	71	-0.0059	97	-0.0914
20	-0.0103	46	0.0027	72	0.0006	98	0.0231
21	0.1774	47	-0.0059	73	0.0005	99	-0.0596
22	0.0514	48	0.0021	74	-0.0007	100～	0.8119
23	-0.0749	49	-0.0027	75	-0.0012		
24	-0.1203	50	-0.0007	76	-0.0003		
25	-0.1246	51	-0.0044	77	0.0121		

※ マイナス部分は転出超過

